# WebFOCUS

## リリースノート/新機能ガイド

バージョン 9.1 | August 2023

Copyright © 2023. Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

# 目次

**1. バージョン 9.1.2 リリースガイド . . . . . 7**
バージョンおよびビルド情報 . . . . . 7
修正済み問題 . . . . . 7
**2. バージョン 9.1.1 リリースガイド . . . . . 15**
バージョンおよびビルド情報 . . . . . 15
アドバイザリ . . . . . 15
修正済み問題 . . . . . 16
アップグレードに関する注意事項 . . . . . 20
既知の問題 . . . . . 21
**3. バージョン 9.1.0 リリースガイド . . . . . 23**
バージョンおよびビルド情報 . . . . . 23
新機能 . . . . . 23
インタラクション . . . . . 23
TIBCO WebFOCUS Designer でのレイアウトの作成 . . . . . 25
ページのデフォルト . . . . . 25
時系列モデル . . . . . 26
クラスタリングモデル . . . . . 26
TIBCO WebFOCUS Designer でのモデルの学習と実行 . . . . . 27
自然言語クエリ . . . . . 27
管理コンソールの TIBCO WebFOCUS Designer のプロパティページ . . . . . 28
XLSX レポート出力の強化 . . . . . 28
SAML 認証での RelayState 値を簡単に構成する新しい設定 . . . . . 29
Reporting Server ブラウザインターフェースからの FOCUS として実行機能 . . . . . 30
FOCUS でのプロシジャの実行 . . . . . 30
C ベースの ZIP ローカルモード . . . . . 44
データサイエンスの NOTRN 権限 . . . . . 44
Analytic Document レポートコンテンツの編集機能の強化 . . . . . 45
RemoteValues 呼び出しでの IBIMR_Random のカスタマイズ . . . . . 46
TIBCO WebFOCUS Data Migrator の強化 . . . . . 47

Data Migrator デスクトップインターフェースの強化 . . . . . 47
TIBCO WebFOCUS Data Migrator の新しい関数 . . . . . 48
修正済み問題 . . . . . 50
アップグレードに関する注意事項 . . . . . 62
**4. リリース情報 . . . . . 65**
ブラウザ情報 . . . . . 65
ibi WebFOCUS のアクセシビリティ準拠 . . . . . 69
アクセシビリティのサポート基準 . . . . . 69
適合ステータス . . . . . 70
アクセシビリティ機能の範囲 . . . . . 70
テクノロジ仕様 . . . . . 71
制限事項 . . . . . 72
ibi™ WebFOCUS Client でサポートされるオペレーティングシステム . . . . . 73
ibi WebFOCUS での Java Platform、Standard Edition (Java SE) のサポート . . . . . 74
サポート対象の Web サーバおよび Application Server . . . . . 75
WebFOCUS Client リポジトリでサポート対象の RDBMS およびドライバ . . . . . 75
ローカリゼーション (NLV) および NLS の制限事項 . . . . . 77
国際言語サポート (NLS) . . . . . 78
ローカライズ版のサポート (NLV) . . . . . 78
ibi WebFOCUS および ibi WebFOCUS Reporting Server . . . . . 78
言語 . . . . . 79
ibi WebFOCUS Client および ReportCaster . . . . . 81
ibi WebFOCUS レポート および Microsoft Office のサポート . . . . . 81
ibi WebFOCUS レポートフォーマットおよび Microsoft 製品との関連付け . . . . . 82
ibi WebFOCUS の EXL2K、PPT フォーマットおよび Microsoft Office 製品のサポート . . . . 83
Microsoft Office 2003 のサポート . . . . . 83
ibi WebFOCUS EXL2K および PPT フォーマットと Microsoft Office Viewer 製品のサポート . . . . . 83
Microsoft Office 365 のサポート . . . . . 84
ハイパーリンクを使用してレポートを実行する際の注意事項 . . . . . 84

ibi WebFOCUS の DOC フォーマット . . . . . 85

**Legal and Third-Party Notices . . . . . 87**

# 1 バージョン 9.1.2 リリースガイド

ここでは、WebFOCUS の上記バージョンについて、必要な最新情報を提供します。

このマニュアルのオンラインバージョンおよびこのバージョンについての詳細は、TIBCO WebFOCUS 製品ドキュメントサイトにアクセスし、[Documentation] タブから製品グループへのリンクを選択してください。

**トピックス**

- バージョンおよびビルド情報
- 修正済み問題

## バージョンおよびビルド情報

| リリース日 | ビルド番号 | Reporting Server |
|---|---|---|
| 2023 年 7 月 | wf070323a<br>wi070323a<br>as062923b | 912 Gen 2559 |

## 修正済み問題

- Active Report を日付時間フィールドでソートすると、正しい結果が表示されない場合があります。(02150480)
- AHTML レポートのスタイルシートで HFREEZE ON が使用されている場合、リストツール機能を使用すると、表示されるソート順序が正しくなりません。
- WebFOCUS バージョン 9.0.4 から 9.1.1 にアップグレード後、V4 ポータルが正しく表示されません。(02178734)
- Designer でビジュアライゼーションへの 2 つ目のフィルタの追加が機能せず、不明なエラーメッセージ (IA_220606_043618-1) が表示されます。(02108642)

- MVS で実行されている Reporting Server に割り当てられた edasprof.prf ファイルで DYNAM SET TEMPALLOC MVS 設定を使用すると、InfoAssist で修復できないエラーメッセージが表示されます。(02031290、02149418)
- オートプロンプトで、選択リストに割り当てられたフィルタパラメータは、最初にレポートを実行したときには表示されますが、ログアウトして再度ログインしてからレポートを再実行すると表示されません。(02158179)
- 通常のディメンションとして使用できる場合でも、日付フィールドと地理位置情報フィールドを、標準ディメンションパラメータフィールドリストバケットにドロップすることができません。(02171386、02184987)
- Designer で DEFINE フィールドを含む HOLD ファイルを使用すると、「フィールド名が認識できません」というメッセージが表示されます。(02180100)
- edasprof.prf ファイルで SET HOLDFORMAT=ALPHA コマンドが設定されている場合、InfoAssist および Designer で [データソースの選択] パネルからマスターファイルを選択すると、開始時に不明なエラーメッセージが表示されます。(02122169、02180422)
- Db2 環境で、作成済みのワークスペースから [マイコンテンツ] フォルダが削除されます。(02176670)
- WebFOCUS バージョン 9.1 の構成を変更し、webfocus.cfg ファイルに書き込む資格情報を追加すると、資格情報は暗号化されず、テキストとして保存されます。(02167257、02174213)
- WebFOCUS Client と Reporting Server で UTF-8 Unicode および中国語 (繁体字) 言語の使用を構成すると、レポートの実行時に「ibihash_getStr：ERROR」メッセージが表示されます。(02112454)
- ユーザ ID に割り当てられたパスワードの変更を webfocus.cfg ファイルに保存すると、更新されていないパスワードも含め、ファイル内のすべてのパスワードが再暗号化され、更新されていないパスワードが使用できなくなります。(02173724、02170555、02175970)
- InfoAssist で上付き文字の特殊文字 x を含む名前のファイルまたはフォルダ内でワークスペースの作成またはプロシジャの実行を行った場合、実行時に「名前に、次の文字は使用できません」というメッセージが表示されます。
- WebFOCUS バージョン 9.1.1 にアップグレード後、db_inplace_update.bat ファイルを実行すると、インストールエラーメッセージが表示されます。(02173547)
- AHTML ALLOW-FILTER=ON または OFF コマンドを使用してレポートを実行すると、レポートは内部例外で失敗します。(02174105)

- 大規模なリポジトリデータベースを使用する場合のパフォーマンスが改善されています。この修正は、WebFOCUS へのログインおよび WebFOCUS Hub へのアクセスに影響します。
- WebFOCUS で、パッケージを作成するユーザ ID に円記号文字 (¥) が含まれている場合、変更管理のエクスポートプロセスでハングアップが発生します。(02175293)
- mrdtcleanup.bat ファイルをサイレントモードまたはインタラクティブモードで実行すると、「java.lang.NullPointerException：null」メッセージが表示されます。(02177432)
- 見出しに &MR_FULL_FEXNAME 変数が含まれている場合、変数は解決されず、代わりにユーザに変数値の入力が要求されます。(02170688)
- WebFOCUS バージョン 9.1.0 から 9.1.1 にアップグレード後、マップのレンダリングの問題が発生します。(02163970、02166980、02175388)
- シノニムで定義済みのフィルタを使用する HOLD ファイルを使用するレポートは、期待どおりに実行できますが、InfoAssist で作成、編集することはできません。(02152031)
- InfoAssist アプリケーションウィンドウのレポートフィルタウィンドウからオプションのフィルタを削除しても、オプションのフィルタがレポートプロシジャコードから削除されません。(02040817)
- バージョン 8.2 SP02 で作成された DEFINE および HOLD を含む InfoAssist レポートを編集すると、「ページが応答しません」メッセージが生成され、CPU 使用率が増加します。(02037161)
- UTF-8 コードページを使用するよう構成された InfoAssist インストールで、繁体字中国語の文字に基づく DEFINE フィールド名を含むレポートプロシジャを実行しようとすると、ページが応答しないことを示すメッセージが返されます。(02159878)
- Quick Data でレポートを保存する際、一部の操作によって、WebFOCUS Reporting Server のライセンスキーを検証できないためローカルホストに接続することを示すメッセージが表示される場合があります。 (02159620)
- InfoAssist でフィルタを作成して <値> に対する実行時入力パラメータを選択する場合、文字列を含む、文字列を含まない、文字マスクなどの一部の関係演算子が、ドロップダウンリストに表示されません。(02175422)
- App Studio で GLOBALNAME 設定が存在する場合、ユーザは HTML ページを複数回実行することができません。(02151600)
- App Studio で、複数の WHERE 句を含むプロシジャからデータを取り込んだ場合、HTML ページが開くまでに時間がかかることがあります。(02140194)

- App Studio で、自動生成されたブラウザ依存のプロセスが App Studio セッションが閉じられるまで終了しないため、前のリクエストが完了するまで新しいリクエストの実行が遅れます。 (02165064)
- App Studio で、[パラメータ値の自動再使用] オプションが [いいえ] に設定されている場合、[パラメータの保存] ダイアログボックスがロードされません。(02151190)
- App Studio の HTML ページで、ドロップダウンリストに数字が含まれている場合、検索機能が動作しません。(02172901)
- App Studio で、HTML ページのロード時に -DEFAULT と -DEFAULTH の両方の変数値が設定されません。(02158881)
- App Studio をバージョン 8.1 SP05M から 9.0.4 にアップグレード後、ドロップダウンリストを含む HTML コンポーザページを実行すると、[表示フィールド] の値が表示されなくなります。(02175956)
- WebFOCUS Designer で、ビジュアライゼーションのフィルタバーに割り当てられたマスターファイルフィルタで、ユーザがオプションを選択する必要があります。(02157840)
- WebFOCUS Designer でユーザがマスターファイルフィルタをダブルクリックすると、「AddIsFilter」エラーメッセージが表示されます。(02157838)
- WebFOCUS Designer で、[プロパティ] パネルの [フォーマット] タブの [テーマ] 設定の値として、[ページテーマの継承] ではなく、[Designer 2018] が表示されます。(02172209)
- レポートで、日付が YYYMMDD フォーマットに準拠していない場合、日付値を定義済みフィルタに渡すドリルダウンリンクが応答を停止します。(02166207)
- Designer オートプロンプトテンプレートが [デザイナ] に設定されている場合、IBIMR_domain および IBIMR_fullpath に誤った値が表示されます。(02166402)
- バージョン 8.2.06 の WebFOCUS Designer で作成されたポータルページは、バージョン 9.0.3 または 9.1.1 で実行すると表示できません。(02173218)
- WebFOCUS Designer で、[ファイルにエクスポート] コマンドの値を [縦] または [横] に設定すると、レポートに余分な空白が表示されます。(02143490)
- WebFOCUS Designer で、フィールド名の文字が DBCS の場合、パラメータ値がドリルダウンに渡されません。(02164709)
- WebSEAL で保護された環境で WebFOCUS を使用し、新しい変更管理シナリオを作成しようとすると、「404 - ページが見つかりません」というエラーメッセージが表示される場合があります。(02117053)

- WebFOCUS Designer ポータルでは、ユーザメニューが AODA (Accessibility for Ontarians with Disabilities Act) に準拠していませんでした。(02147233)
- 以前のバージョンで動作していた条件付き ACROSS スタイルを使用した AHTML レポートは、バージョン 9.1.0 および 9.1.1 では動作しなくなりました。(02170961)
- 実行時に表示されるカレンダーコントロールに、[前の月] ボタンと [次の月] ボタンが表示されません。(02160748、02160749)
- Developer Studio から App Studio MAINTAIN にマイグレートされたアプリケーションには、正しくない構文が含まれている可能性があり、動的変数の一部が欠落する可能性があります。(02161257、02131843)
- ReportCaster でスケジュールを複製しようとすると、「ibi.broker.api.data.CasterException：検証エラー：'execPassword' の値が必要です。エラーコード：MSGV0004」というメッセージが表示されます。(02116371)
- ReportCaster バージョン 9.0.2 以降で、バージョン 8.1 SP05 の配信リスト (Distribution Server データベースのハンドルによって場所を識別) は、保存しない限り、取得して新しい配信のアドレス帳として使用することができません。(02164026)
- ReportCaster で、[最大接続数 (スレッド数)] の設定が無視されます。(02177998、02186241)
- RECAP ステートメントを使用した TABLE リクエストでは、ページに配置されるデータがバージョン 8.1 SP05M より少なくなります。(02152927、02161914)
- バージョン 9.1.0 にアップグレード後、PDF 出力ファイルに表示されるページあたりの情報の行数が増加するため、自動アップグレード検証テストが失敗する場合があります。(02144041)
- WebFOCUS バージョン 8.1 SP05M と 9.1.1 では、PDF 出力のファイルサイズが、およそ 1 キロバイト異なります。(02170868)
- SET EMPTYREPORT コマンドを使用するレポートに見出しと ACROSS 句も含まれいる場合、見出しに追加の文字が表示されるため、Excel 出力でファイルが破損していることを示すメッセージが返されます。(02156515)
- ibi¥srv82¥wfs¥etc¥fontuser.xml ファイルにエンドユーザ定義文字 (EUDC) セクションが含まれている場合、EUDC および Times New Roman などの他のフォントが PDF 出力で期待どおりに表示されません。(02157055)

- Vertica Server バージョン 11 以降で、JDBC ドライバテーブルにデータタイプとしてブール値が含まれている場合、true と false の両方としてゼロ (0) の値が返されます。(02130672)
- Data Migrator で、REST アダプタに送信された再認証リクエストが JSON ではなく XML で返されるため、アダプタが応答を停止します。(02154644)
- Unicode 構成を使用する Microsoft SQL Server リポジトリ内のプロシジャ (.fex) またはその他のオブジェクトから 32,000 行を超えるテキストを取得しようとすると、SQL Server 接続を介した TSCOM 検索が応答を停止します。(02164562)
- Microsoft SQL Server アダプタを OLE DB または ODBC とともに使用している場合、Active Directory ユーザから信頼済み ID を渡してテスト用のアクセス権を取得したり、SQL Server バルクローダを使用したりしようとすると、エージェントが応答を停止します。(02167066)
- Amazon Athena アダプタ接続で、マルチバイト文字を含むフィールド名を使用してレポートを実行すると、SQL エラーが発生します。(02168645)
- WebFOCUS バージョン 9.1.1 では、バージョン 8.1.05M よりも多くのデータが PDF レポートに格納されます。(02170873)
- シノニムを作成する際に、Google BigQuery アダプタのエージェントが応答を停止します。(02176597)
- InfoAssist Basic で大規模なマスターファイルに基づくレポートを編集する場合、フィルタの追加や削除などのアクティビティに対する応答が遅くなります。(02111797)
- CSRF トークンをインストールして WebFOCUS で有効にした場合、WebFOCUS Client アダプタを使用すると、「htRecv：エラーが発生しました。ステータス = 403 アクセス不可」メッセージが表示されます。(02154242)
- HP Vertica を使用する場合、Designer の [DEFINE] タブに誤った UTF-8 文字列が表示されます。(02174890)
- バージョン 9.1.1 にアップグレード後、REST アダプタと OData アダプタの両方で、クライアントシークレットパラメータがブランクの場合に新しい接続を追加できません。(02187255)
- Data Migrator バージョン 9.0.3 で、バージョン 8.2 SP03M で作成された DBMS SQL フローを実行すると、エラーメッセージが表示されます。(02159197)
- Data Migrator バージョン 9.0.3 で、ユーザはバージョン 8.2 で作成されたデータフローに加えた変更を保存できません。(02160373)

- Data Migrator で、メタデータ管理の [テキストとして編集] オプションを使用して大規模なマスターファイルのメタデータを編集すると、サーバ HTTP リスナが応答を停止する場合があります。(02159936)
- Data Migrator で、FPRINT 関数が An フィールドの AnV フォーマットを受け入れません。(02170093)
- 大規模な XFOCUS ファイルをロードすると、異常終了 (S0C1) が発生する場合があります。(02160373)
- クロスリファレンスを含むマスターファイルを使用するプロシジャを実行した場合、セッションの停止、エージェントのクラッシュ、または強制終了を示すエラーメッセージが自動的に生成されます。(02155564)
- 実行する TABLE リクエストのアクセスファイルに 255 を超えるパーティションが含まれていると、FOCSORT エラーメッセージ (FOC198) が表示される場合があります。(02148522)
- ファイルが FDS (SU) 下に存在する場合、KU セグメントを含むマスターファイルに対して MODIFY または MAINTAIN プロシジャを実行すると失敗します。(02162996)
- WebFOCUS バージョン 9.0.4 でファイル名が指定されていない場合、セグメントの短縮名が認識されません。(02175342)
- バージョン 8207.28 から 9.0.4 にアップグレード後、J0 の JOIN 名にセグメントの短縮名が使用されている場合、「フィールド名が認識できない」というエラーメッセージが表示されます。(02180814)
- 合計値の計算にミッシング値 (NODATA) が使用できる場合でも、FOCUS レポートの中間脚注の TOT. 接頭語に MISSING ではなく値 0 (ゼロ) が表示されます。 (02166432)
- バージョン 8207.28.10 以降で、ファイルの存在を確認する STATE コマンドは、期待されるリターンコードのゼロ (0) を返す代わりに、edaprint ログに READ アクセスエラーを生成します。(02156668)
- 値が 100 個を超える ESRI コロプレスチャートのロードが完了しません。(02141412、02148863)
- [ディファードステータス] ダイアログボックスの [リフレッシュ] ボタンを繰り返しクリックすると、TCP/HTTP リスナのメモリ破損が発生するため、リスナがクラッシュします。(02167983)
- Reporting Server の dfm_dir ディレクトリに多数のディファードレポートが保存されている場合、単一レポートの取得で Client のパフォーマンスの問題が発生します。(02173572)

- Reporting Server ブラウザインターフェースの [ディスクへのアプリケーションマッピング] オプションを使用して DBCS 文字を含むフォルダをマッピングすると、マッピングパスが無効 (SJIS) であることを示すメッセージが表示されます。(02180716)
- edasprof.prf ファイルで ARVERSION=2 を設定した後、ビジュアライゼーションの作成時に、「Uncaught TypeError」エラーメッセージが表示されます。(02112055)
- 棒グラフで、ツールヒントが 1 秒後に非表示になります。(02142386、02152550)
- ユーザが iPad またはモバイルデバイスを回転させると、グラフが一時的に消失します。(02151691)
- グラフのライザからマウスポインタを移動させても、ツールヒントが非表示になりません。(02152531)
- WebFOCUS Designer でテーマを変更した場合、プレビューウィンドウが正しく更新されません。(02149567)
- JSCHART エンジンを使用してグラフを PNG イメージとして生成すると、ウムラウト付きの文字が正しく生成されません。(02031109)
- IBFS_arg0 パラメータの引数が欠落しているため、clearIBFSCache RESTful サービスで WebFOCUS Client キャッシュがクリアされません。(02150339)

# 2

# バージョン 9.1.1 リリースガイド

ここでは、WebFOCUS の上記バージョンについて、必要な最新情報を提供します。

このマニュアルのオンラインバージョンおよびこのバージョンについての詳細は、TIBCO WebFOCUS 製品ドキュメントサイトにアクセスし、[Documentation] タブから製品グループへのリンクを選択してください。

トピックス


- バージョンおよびビルド情報
- アドバイザリ
- 修正済み問題
- アップグレードに関する注意事項
- 既知の問題


## バージョンおよびビルド情報

| リリース日 | ビルド番号 | Reporting Server |
|---|---|---|
| 2023 年 1 月 | wf012623a<br>wi012623a<br>as012423a | 911 Gen 2556 |

## アドバイザリ

ibi Data Migrator は、ibi WebFOCUS バージョン 9.1.1 以降に含まれています。ただし、Data Migrator は、WebFOCUS と同一の実稼働環境にインストールして構成する必要があります。パフォーマンス、スケーラビリティ、管理を強化するため、またはその他の理由で Data Migrator をスタンドアロン環境にインストールする場合は、個別にライセンスを取得する必要があります。

# 修正済み問題

- [レガシー機能を有効にする] が無効の場合、WebFOCUS Designer レポートに [編集] オプションが表示されません。(02135973)
- インストールログにインストールが成功したことが記録されていても、サイレントモードで実行すると App Studio のインストールが失敗します。(02093075)
- iPad では、ユーザが画面の向きを変更すると、動的なサイズ変更に一貫性がなくなります。(02151694)
- Designer のオートプロンプトインターフェースで複数選択リストから [すべて選択] オプションを選択した場合、リスト全体ではなく単一のオプションが選択されます。(02155491)
- ページまたはポータルから [PDF へエクスポート] 機能を選択すると、サイズの大きい PDF が生成されます。この PDF を Adobe Reader で開いて [名前を付けて保存] メニューオプションを使用することで、ファイルサイズを縮小することができます。(02087410)
- ユーザ ID が大文字の場合、ディファードリクエストが送信されません。(02029575、02128295)
- WebFOCUS をアップグレード後、WebFOCUS Designer でカスタムテーマが動作しません。(02054471)
- NLS を使用して、セグメントの長さを増加させてレポートを開くと、HOLD SEGMENT 名がコードと一致しなくなるため、「フィールドが見つかりません」というエラーが表示されます。(02092660、02088727、02111230、02118252)
- WebFOCUS をアップグレード後、InfoAssist で foccache ファイルからのデータを使用するレポートの JOIN が使用できなくなります。(02131608)
- WebFOCUS をアップグレード後、ポータルページが完全にロードされません。(02146538)
- TABPAGENO が存在する場合、LAST コマンドを使用した自己参照 COMPUTE ステートメントが正しくなりません。(02116693)
- getdetails REST 関数で、パラメータを返すことができません。(02116296)
- アップグレード後に、日付をフィルタとして使用する WebFOCUS Designer の変換ページを開くと、ポータル上の残りの変換済みページはエラーを受信し、表示されません。(02143644)
- GLOBALNAME 設定が存在する場合、ユーザは HTML ページを複数回実行できません。(02151600)

- WebFOCUS をアップグレード後、InfoAssist ドキュメントコンポーザで、NOPRINT として識別されるフィールドがレポートに表示されます。(02131611)
- レポート出力に、NOPRINT オプションを指定した数値 BY フィールドが表示されます。(02147498)
- OData アダプタを使用する場合、BY 句とともに使用される PRINT DST. コマンドでエラーが発生します。 (02144161)
- XML ファイルを解析する場合、パーサが外部エンティティへのアクセスを無効にしないため、ペイロードが有効になり、サーバが予期しない動作を実行する可能性があります。(02143664)
- REST アダプタで連鎖認証を使用する場合、再接続できません。(02052582)
- マルチドリルダウンを使用する場合、番号記号またはハッシュタグ (#) がエンコードされません。(02134377)
- レポート出力キャッシュ機能が有効になっていて、多数の列を含むレポートが 2 回以上実行された場合、ユーザはエラーを受信します。(02145223)
- OLAP を使用している場合、保存機能に Excel オプションが表示されません。(02151518)
- Restful API を使用してプロパティに値を割り当てた場合、ユーザはレポートキャッシュ機能を無効にすることができません。(02148782)
- 複数のプロセスを含むフローが実行されると、Data Migrator デスクトップインターフェースが応答しなくなります。(02116640)
- OLAP リクエストを実行する際、ディメンションフィールドの値が OLAP コントロールパネルのフィルタとして表示されません。(02154710、02155335)
- WebFOCUS Designer で、二重引用符 (") を含まない動的フィルタ条件でレポートを作成して保存した場合、レポートを編集して再度保存すると、二重引用符が自動的に追加されます。(02150029)
- カスタム円ラベルが PDF 円グラフに表示される際に、円イメージまたは他のラベルと重なる場合があります。(02079559)
- TABPAGENO および MULTI-LINE とともに COMPUTE 関数を使用すると、誤った計算結果が返されます。(02144918、02144052、02146206、02146202)
- パック 10 進数フィールドで FPRINT 関数を使用すると、小数点以下の桁数が正しくなりません。(02126139)

- Rest Web サービスを記述するマスターファイルに対してレポートを作成し、大量の日付セットを選択すると、FOC42271 エラーメッセージが表示されます。(02146592)
- WebFOCUS Reporting Server をバージョン 8.1.05M からバージョン 8207.28.09 にマイグレート後、Netezza ソースデータベースへの汎用 ODBC 接続を使用するクラスタマスターファイルは、FOC1400、FOC1500、FOC1406 エラーメッセージを返します。(02139615)
- 見出しで DBCS が 1067 文字以上に設定されている場合、XLSX 出力フォーマットを使用するレポートが失敗します。(02113137)
- 最初のページに十分な空きスペースがある場合でも、ラインフィード (LF) 機能によって、PDF レポートが 2 ページに分割されます。(02077512)
- [選択] オプションが [すべて] に設定され、デフォルトオートプロンプトテンプレートが [デザイナ] に設定されている場合でも、オートプロンプトの選択リストに [選択なし] の値が表示されます。(02122330)
- App Studio で、ターゲットコントロールにロードされるパラメータの表示時間が 1 秒未満になります。(02149997)
- 管理コンソールの [セキュリティ] タブの設定に追加された資格情報が、webfocus.cfg ファイルに転送される際に暗号化されません。(02145458、02146816)
- プロシジャファイルで条件を使用する場合、スペース文字 ( )、プラス文字 (+)、マイナス文字 (-) の動作が区別されません。ASIS 関数を使用すると、これらの文字は期待どおりに動作します。(02135337)
- App Studio で一部の操作を実行した場合、HTML キャンバスの [リクエストとデータソース] パネルが動作しなくなります。(02149067)
- App Studio でページのロード後、一部のウィジェットに [参照] (...) フィルタアイコンメニューが正しく配置されません。(02126090)
- WebFOCUS バージョン 9.0.1 およびバージョン 9.0.2 で、追加された地域がリーフレットマップに表示されません。(02119227)
- GIS ポイントを使用してレポートからマップ (またはその逆) にドリルすると、選択した値がマップに表示されません。代わりに、マップがリフレッシュされ、ポイントが表示されなくなります。(02146407)
- Google Chrome または Microsoft Edge ブラウザを使用している場合、有効なユーザ認証資格情報を含む foccache セッションが維持されないため、App Studio ユーザは、最初のフォームベース認証または Kerberos 認証の後に、WebFOCUS へのログインが要求されます。(02144969、02151640)

- 値に 2 つの単一引用符 ('') のみが含まれている場合、[選択の保存] の値が保存されません。(02154104)
- window.opener を使用して新しいウィンドウから親ウィンドウの値を選択すると、「TypeError: Cannot read properties of null」というエラーメッセージが表示されます。(02152208)
- プロシジャファイルで条件を使用する場合、スペース文字 ( )、プラス文字 (+)、マイナス文字 (-) の動作が区別されません。ASIS 関数を使用すると、これらの文字は期待どおりに動作します。(02144918、02135337)
- WebFOCUS Designer の [データ] タブからビジュアライゼーションを作成する場合、レポートを保存してから再度編集すると、レポート内の HOLD ファイルへの参照が変更されるため、期待されるデータが出力されません。(02148621)
- データ管理コンソールのデータフローで、ターゲット変換の COMPUTE フィールドのターゲット変換が保存されません。(02147139)
- ユーザが [Get Refresh Token] をクリックすると、WebFOCUS Cloud 環境は 404 エラーメッセージを返します。(02139279、02144646)
- レポートに含まれるリポジトリプロシジャの数とサイズは実行時のパフォーマンスに影響し、[実行] ボタンがクリックされてからレポートリクエストが Reporting Server に配信されるまでに遅延が発生する可能性があります。(02042501)
- 言語が日本語に設定され、nlscfg.err ファイルが更新されていない場合、ブラックアウト期間の情報が Distribution Server で文字化けします。(02120166)
- 事前定義式で DEFINE フィールドが作成されている場合、ファイルを再度開いたときに名前が変更されます。(02152428)
- DEFINE ステートメントで DT_FORMAT 関数を使用すると、「SQL コード：8116」というエラーメッセージが返されます。(02131685)
- WebFOCUS レポート言語で、BY ROWS OVER 手法が表形式 (DAX) データアダプタで機能しません。(02152366)
- バージョン 9.1.0 で、CopyWFVarToSessionVar メソッドは値を &EID_PATH 変数に割り当てることができません。(02157747)

- Trusted チケット認証が有効で、[埋め込みの許可] および [CORS (クロスオリジンリソース共有) の許可] の両方ですべての URL を受容するよう構成されている場合でも、認証済みユーザにはログインページが表示され、埋め込みポータルを表示する前に資格情報の入力が要求されます。(02142707、02151235)

## アップグレードに関する注意事項

- バージョン 9.1.1 以降、webfocus.cfg 構成ファイルのエントリ IBI_ADMIN_PASS および IBI_WFRS_SERVICE_PASS を手動で変更した場合、これらは起動時に暗号化されなくなります。新しく提供される wfencryptor.sh または wfencryptor.bat ユーティリティを使用して、パスワードを手動で暗号化することができます。

  以下はその例です。

  1. コマンドラインから次のスクリプトを実行します。

     ```
     C:¥WebFocus¥ibi¥WebFOCUS91¥utilities¥bin>wfencryptor pwd
     ```

     説明

     `pwd`

     暗号化するパスワードです。

  2. 暗号化されたパスワードを構成ファイルにコピーします。
  3. Application Server を開始または再起動します。

  **注意：**WebFOCUS GUI ツールを使用する場合、パスワードは暗号化されます。

- WebFOCUS バージョン 9.1.x へのアップグレードには、Hyperstage で使用される PostgreSQL の上位バージョンが同梱されます。以前のバージョンの WebFOCUS で作成された Hyperstage データベースは、このバージョンと互換性がありません。アプリケーションで Hyperstage が使用されている場合は、バージョン 9.1.x へのアップグレードは推奨されません。

  アップグレードインストールを実行すると、更新を続行することへの同意を求めるメッセージが表示されます。Hyperstage がアプリケーションで使用されていない場合のみ、更新を続行してください。それ以外の場合は、更新を完了せずインストールを中止してください。

- WebFOCUS バージョン 9.1.0 以降では、webfocus.cfg ファイルのパラメータに割り当てられた Windows オペレーティングシステムのパス名に、既存の各バックスラッシュの左側に追加のバックスラッシュ文字 (¥) が含まれています。

これらの追加のバックスラッシュ文字は、管理コンソールに表示される際には、これらと同一の設定に対応するパス名には表示されません。

管理コンソールの設定で新しく作成または更新したパス名を保存すると、追加のバックスラッシュ文字が webfocus.cfg ファイルパラメータに自動的に追加されます。

これらは、WebFOCUS によって呼び出されるパス名の機能には影響しません。したがって、それらを削除する必要はありません。

**注意：**この変更は、Linux または UNIX オペレーティングシステムのパス名には適用されません。

## 既知の問題

- Windows 11 または Windows 2022 で App Studio を使用する場合、最初の起動時に App Studio が開かない場合があります。この問題を回避するには、管理者としてコマンドプロンプトウィンドウを開き、thisfoc.bat ファイルを実行します。その後の起動は、正常に行われます。
- [検索結果] リストから項目を検索する場合、[項目の検索] ショートカットのみを使用することをお勧めします。[ワークスペース] ページが開いて選択した項目が [コンテンツエリア] に表示されたところで、選択した項目を右クリックしてショートカットメニューを表示できます。[コンテンツエリア] のショートカットメニューのオプションは、期待どおりに動作します。
- App Studio バージョン 9.1.1 をアンインストール後、InstallAnywhere 2022 アプリケーションの問題により、アプリケーションがレジストリキーを削除できなかったことを示す複数行のメッセージが表示されます。このメッセージはアンインストールプロセスに影響を与えず、インストールは正常に完了しています。

# 3 バージョン 9.1.0 リリースガイド

ここでは、WebFOCUS の上記バージョンについて、必要な最新情報を提供します。

このマニュアルのオンラインバージョンおよびこのバージョンについての詳細は、TIBCO WebFOCUS 製品ドキュメントサイトにアクセスし、[Documentation] タブから製品グループへのリンクを選択してください。

トピックス


- バージョンおよびビルド情報
- 新機能
- 修正済み問題
- アップグレードに関する注意事項


## バージョンおよびビルド情報

| リリース日 | ビルド番号 | Reporting Server |
|---|---|---|
| 2022 年 11 月 | wf110122a<br>wi110122a<br>as102522a | 910 Gen 2553 |

## 新機能

ここでは、上記バージョンの新機能について説明します。

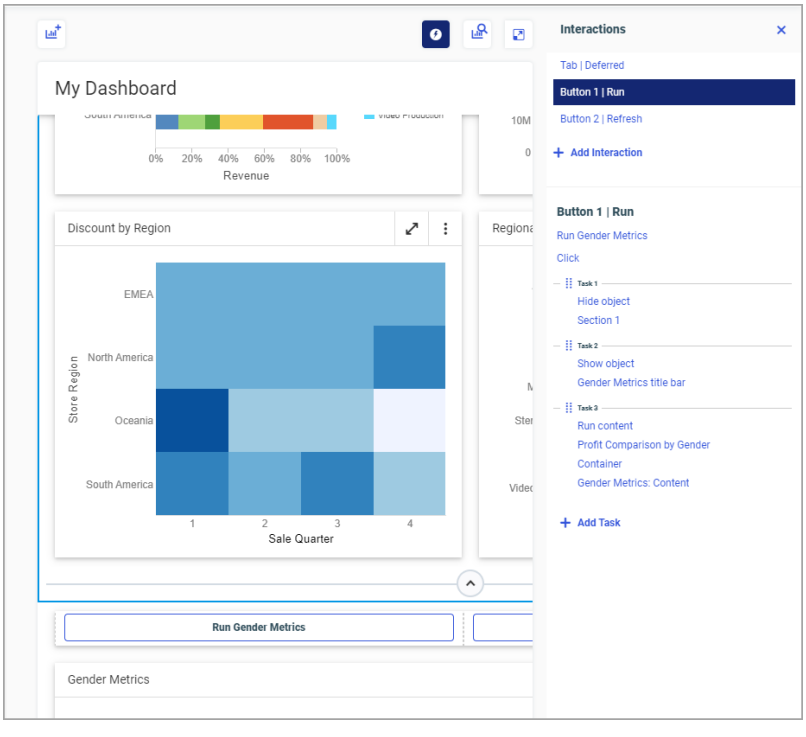
### インタラクション

TIBCO WebFOCUS Designer のインタラクション機能を使用して、さまざまなオブジェクトをプログラム化し、ページ上で特定のアクションを実行することができます。この機能により、ユーザは、作成済みページのコンテンツを表示するだけでなく、オブジェクト (例、コンテナ、ボタン、コントロール) を構成し、他のオブジェクトまたはコンテンツとのインタラクションを設定することができます。インタラクションを作成するプロシジャは、[インタラクション] パネルで実行でき、コーディングや構文の変更は必要ありません。

インタラクションをプログラム化することで、次のことを実行できます。

- ページの未使用領域へのコンテンツ挿入
- ページの既存領域内でのコンテンツの置き換え
- 新しいブラウザウィンドウでのコンテンツの実行
- 現在のブラウザウィンドウでのコンテンツの実行
- コンテンツの実行またはディファード実行
- ページ上のオブジェクトの表示または非表示
- コンテンツのスケジュール
- 条件を使用した値の選択に基づく、さまざまなアクションの実行

これらすべての機能により、ページに新たな柔軟性が加わります。下図は、構成されたインタラクションの例を示しています。

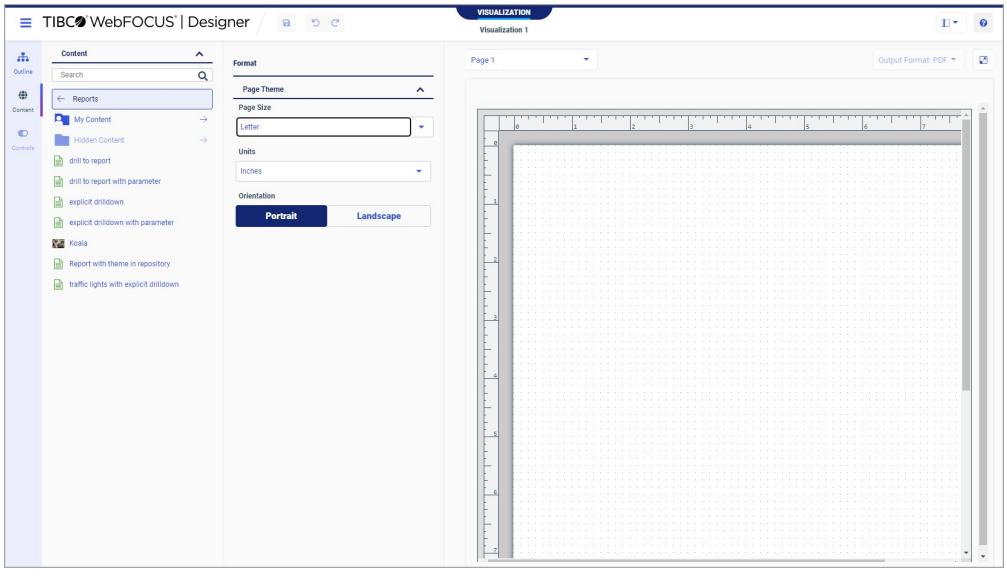


## TIBCO WebFOCUS Designer でのレイアウトの作成

WebFOCUS Designer のレイアウトモードを使用して、プレゼンテーション用のレポートを生成し、組織内の他のユーザやグループと共有するために使用できる複合ドキュメントを作成できるようになりました。WebFOCUS Designer のレイアウトモードでは、次のことが行えます。

- 新しいレイアウトの作成または既存レイアウトの編集
- リポジトリ内のコンテンツを使用したレイアウトの作成
- レポート、グラフ、イメージを単一レイアウトに結合
- 既存レイアウトへのページの追加
- 最終レイアウトを PDF として保存後、簡単にアクセスおよび配信

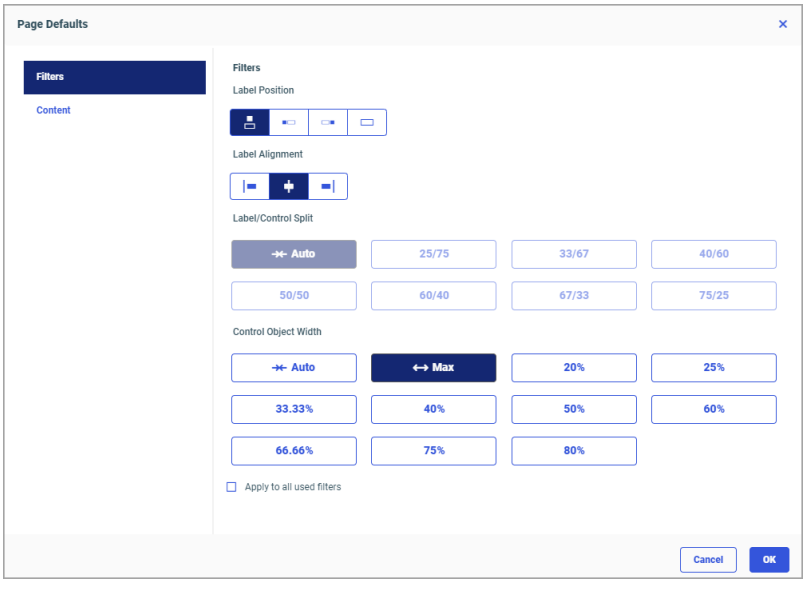
下図は、ブランクのレイアウトモードインターフェースの例を示しています。




## ページのデフォルト

- サイドバーの [フィルタ] タブ内の [参照] (...) アイコンをクリックします。この場所からアクセスすると、[ページのデフォルト] ダイアログボックスに [フィルタ] タブが自動的に表示されます。
- 下図のように、[ページ設定] パネルの [ページのデフォルトを編集] リンクをクリックします。この場所からアクセスすると、[ページのデフォルト] ダイアログボックスに [コンテンツ] タブが自動的に表示されます。

下図は、[ページのデフォルト] ダイアログボックスを示しています。




## 時系列モデル

データに対して予測分析を実行する際に、時系列予測モデルを使用できるようになりました。これらのモデルは、Auto-SARIMA 予測アルゴリズムに基づいて、時系列予測を生成します。

このアルゴリズムは、履歴データからさまざまなパターンを検出します。これらのパターンが履歴データを超える期間にわたって継続する場合、ある程度の不確実性を伴いますが、予測を行うことができます。

## クラスタリングモデル

データに対して予測分析を実行する場合に、クラスタリングモデルを使用できるようになりました。これらのモデルは、K-Means と BIRCH という 2 つの異なるクラスタリングアルゴリズムに基づいて、クラスタ割り当てを生成します。

K-Means は、データポイントのさまざまなジオメトリプロパティを使用し、類似性に基づいてデータポイントをクラスタに割り当てます。BIRCH は、データポイント間の距離が設定されたしきい値距離よりも小さい場合に、データポイントを同一クラスタ内に配置できるようにする階層的な方法です。

両方のクラスタリングモデルタイプが、デフォルト設定のハイパーパラメータで同時に実行されます。

## TIBCO WebFOCUS Designer でのモデルの学習と実行

WebFOCUS Designer の [データ] タブからデータフローを作成する際に、機械学習機能を使用してデータの予測分析を実行できるようになりました。

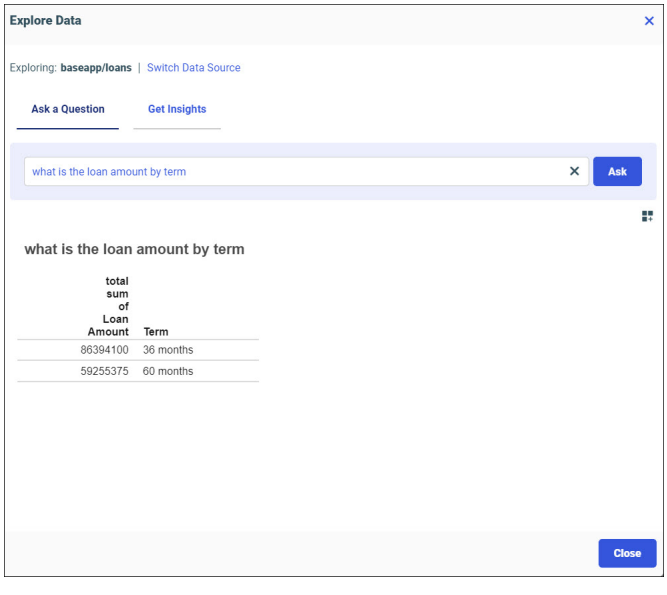
類似のデータに対してデータの学習を実行することで、データフローで使用する予測モデルを評価して保存したり、すでに保存されている予測モデルに対してデータを実行したりできます。

## 自然言語クエリ

自然言語クエリ (NLQ) では、データについて日常言語で質問することで、データを分析することができます。WebFOCUS Hub または WebFOCUS Designer のコンテナからデータを探索する際に、NLQ を使用できるようになりました。

NLQ は、データベースに対して実行可能な SQL コードに自然言語を変換します。自然言語の語句は、データ内の関連するデータベーススキーマ列と照合され、クエリ結果がテーブルとして表示されます。結果を保存して、後で使用することができます。

下図は、WebFOCUS Hub で NLQ を使用したクエリ結果を示しています。



## 管理コンソールの TIBCO WebFOCUS Designer のプロパティページ

管理コンソールの新しい [Designer のプロパティ] ページを使用して、管理者は、すべてのユーザに対する WebFOCUS Designer ツールの機能の表示と使用を設定することができます。管理者は、このページを使用して、[データプレビュー方法]、[最大レコード数]、[制限の適用] の各ツール設定に割り当てられるデフォルト値を指定できます。また、管理者は、[ユーザの上書きを許可] のチェックをオンにして、各設定に割り当てられたデフォルト値の変更をユーザに許可することもできます。この機能を使用することで、管理者は、これらのツール設定に割り当てられたデフォルト値をカスタマイズし、組織の要件に適合させることができます。

## XLSX レポート出力の強化

XLSX レポート出力では、次の機能が強化されました。

- XLSX 出力で、見出しおよびオプションで列タイトルの固定が可能になりました。これにより、見出しやタイトルが示すコンテキストを失うことなくデータをスクロールできます。
- 列の固定が可能になりました。これにより、右側にスクロールしてワークシートのデータを表示する際に、コンテキストを失わず指定した列は画面上に保持されます。

**注意：**ソートフィールドに基づいて複数のワークシートを表示する BYTOC オプションを使用した場合、ブック内の複数のワークシートに固定を適用できます。

### 構文　XLSX レポートでのスクロール可能領域の作成

XLSX レポートでスクロール可能な領域を作成するには、次のスタイルシート構文を使用します。

```
TYPE=REPORT, HFREEZE={OFF|ON} ,$
```

説明

`HFREEZE=OFF`

見出しおよび列タイトルを固定しません。デフォルト値は OFF です。

`HFREEZE=ON`

見出しおよび列タイトルを固定します。

### 構文　XLSX レポートでの列の固定

XLSX レポートで固定する列を設定するには、次のスタイルシート構文を使用します。

```
TYPE=REPORT, FREEZE-COLUMN={Ncolumn|fieldname} ,$
```

説明

`column`

固定を開始する列番号を指定します。

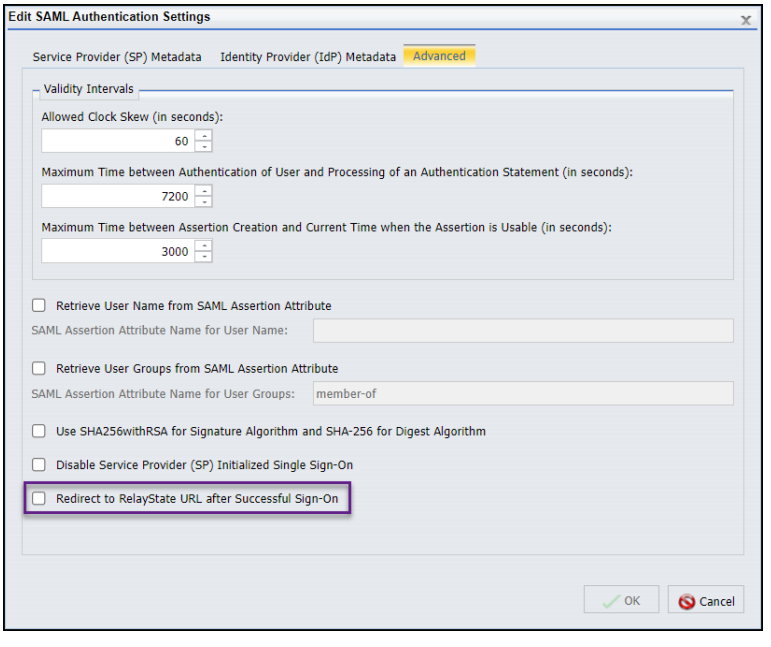
`fieldname`

固定を開始する列のフィールド名を識別します。

これらの機能についての詳細は、『TIBCO WebFOCUS Language リファレンス』を参照してください。

## SAML 認証での RelayState 値を簡単に構成する新しい設定

WebFOCUS 9.1.0 では、下図のように、[SAML 認証設定の編集] ダイアログボックスに [ログインに成功後、RelayState で指定された URL にリダイレクトします。] チェックボックスが新しく追加されました。このチェックをオンにすることで、SAML 認証を使用する管理者は、ログイン成功後に ID プロバイダで定義された URL へのユーザの自動リダイレクトを有効にすることができます。これにより、この機能を有効化する必要がある管理者は、この構成設定に簡単にアクセスできます。



## Reporting Server ブラウザインターフェースからの FOCUS として実行機能

既存の FOCUS MSO (Multi-Session Option) ユーザまたは、Web ベース環境で旧バージョンのアプリケーションを実行するユーザがアップグレードパスを指定する場合、Reporting Server ブラウザインターフェースからインタラクティブな FOCUS プロシジャ (FOCEXEC) の実行ができるようになりました。この機能は、MODIFY CTFORM および MODIFY PROMPT、MODIFY DEBUGGER、すべての TABLE、TABLEF、GRAPH 出力およびダイアログマネージャ -CRTFORM および -PROMPT を含むすべての FOCUS コマンドでサポートされます。

**注意：**コンパイルされた MODIFY プロシジャはサポートされません。元の FOCEXEC が必要です。FOCCOMP (.fcm) ファイルは使用できません。

Terminal Operator Environment (TOE)、Talk Technologies (TableTalk および ModifyTalk)、および FOCUS Main Menu (FMMAIN) などの FOCUS ツールは、この環境でサポートされます。

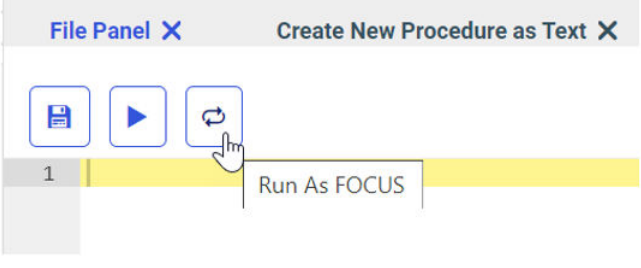
出力は、2 つの左右パネルに表示されます (フルスクリーン出力およびラインモード出力)。これは、MODIFY、MODIFY DEBUGGER またはダイアログマネージャで必要なすべてのデバッグに非常に役立ちます。

### FOCUS でのプロシジャの実行

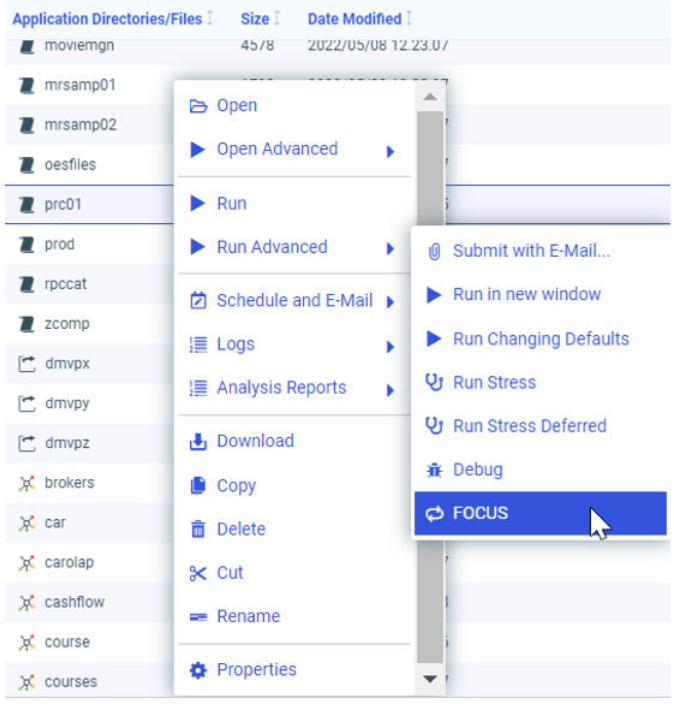
Reporting Server ブラウザインターフェースでアプリケーションディレクトリからプロシジャを選択し、次のいずれかの方法で FOCUS 実行できます。

- [FOCUS として実行] ボタンを使用する。
- [詳細を指定して実行] FOCUS オプションを使用する。

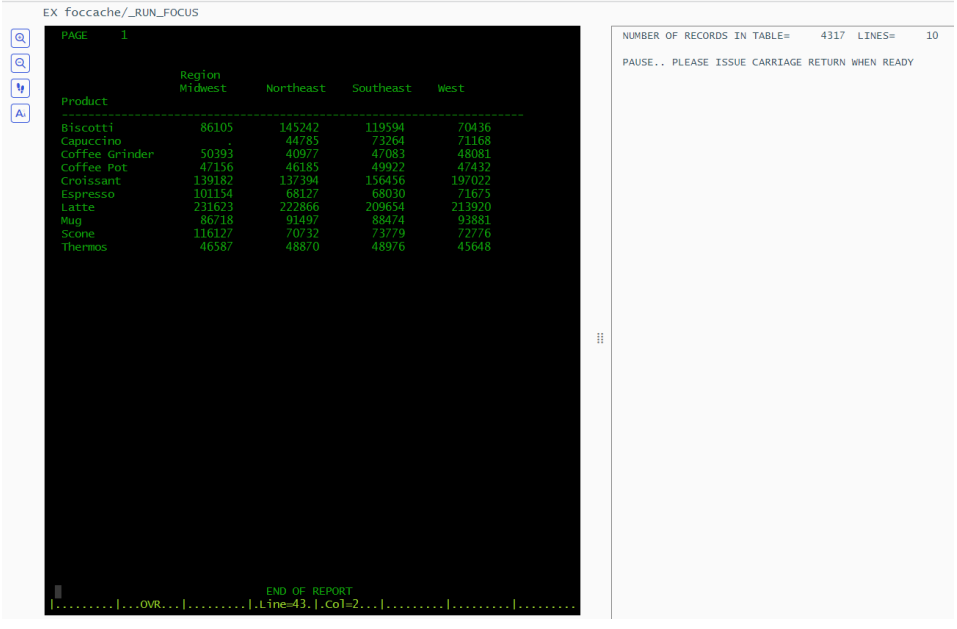
下図は、[FOCUS として実行] ボタンを示しています。



下図は、[詳細を指定して実行] FOCUS オプションを示しています。



下図は、プロシジャ実行時の 2 つの左右パネル (フルスクリーン出力およびラインモード出力) の例を示しています。




手順

## Terminal Operator Environment (TOE) を呼び出すには

FOCUS Terminal Operator Environment (TOE) は、オプションのウィンドウ指向環境です。この環境は利用しやすく、生産性を高める機能を提供します。

**注意：**Terminal Operator Environment (TOE) を呼び出すには、次のコマンドでプロシジャを実行します。

```
WINDOW ON
```

この環境では、画面はウィンドウと呼ばれる作業領域に分割されます。次のウィンドウが、画面に同時に表示されます。各ウィンドウでは、特定のタイプのユーザアクティビティの受容またはタスクの実行が行われます。

| ウィンドウ | 機能 |
|---|---|
| コマンド | ユーザ入力を受容します - すべての FOCUS コマンドおよびリクエスト、操作コマンド、WINDOW コマンド。 |

| ウィンドウ | 機能 |
|---|---|
| 出力 | コマンドウィンドウの入力および出力結果を表示し、ホットスクリーン機能にアクセスします。 |
| 履歴 | コマンドウィンドウに入力されたコマンドおよびリクエストをリスト表示します。 |
| ヘルプ | ファンクションキーの設定を表示します。現在のセッションの設定を再定義することができます。 |
| テーブル | 最新の TABLE リクエストを表示します。 |
| エラー | FOCUS エラーメッセージを表示します。 |

**注意**

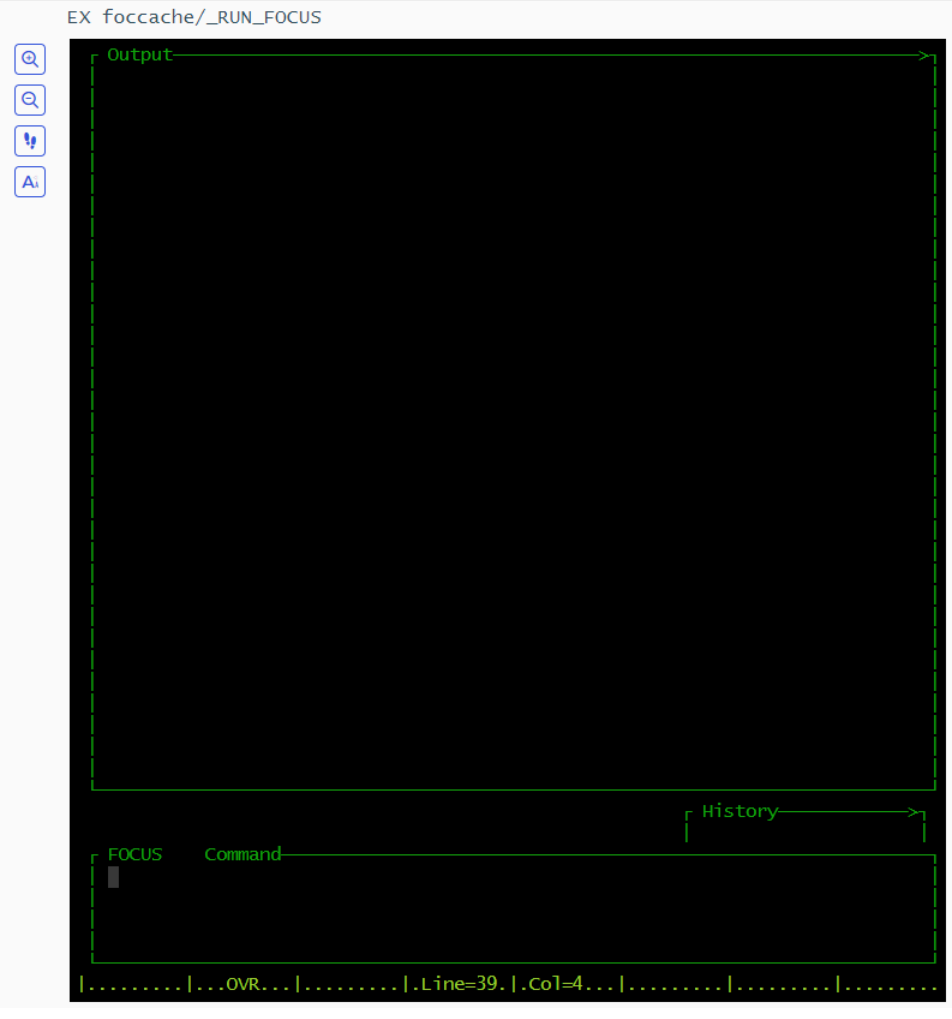
- フルスクリーンターミナルモードのデフォルトは、43 行および 1 行に 80 バイトで設定されています。
- フルスクリーンターミナルモードは UTF コードをサポートします。

手順

## FOCUS プロシジャを実行するには

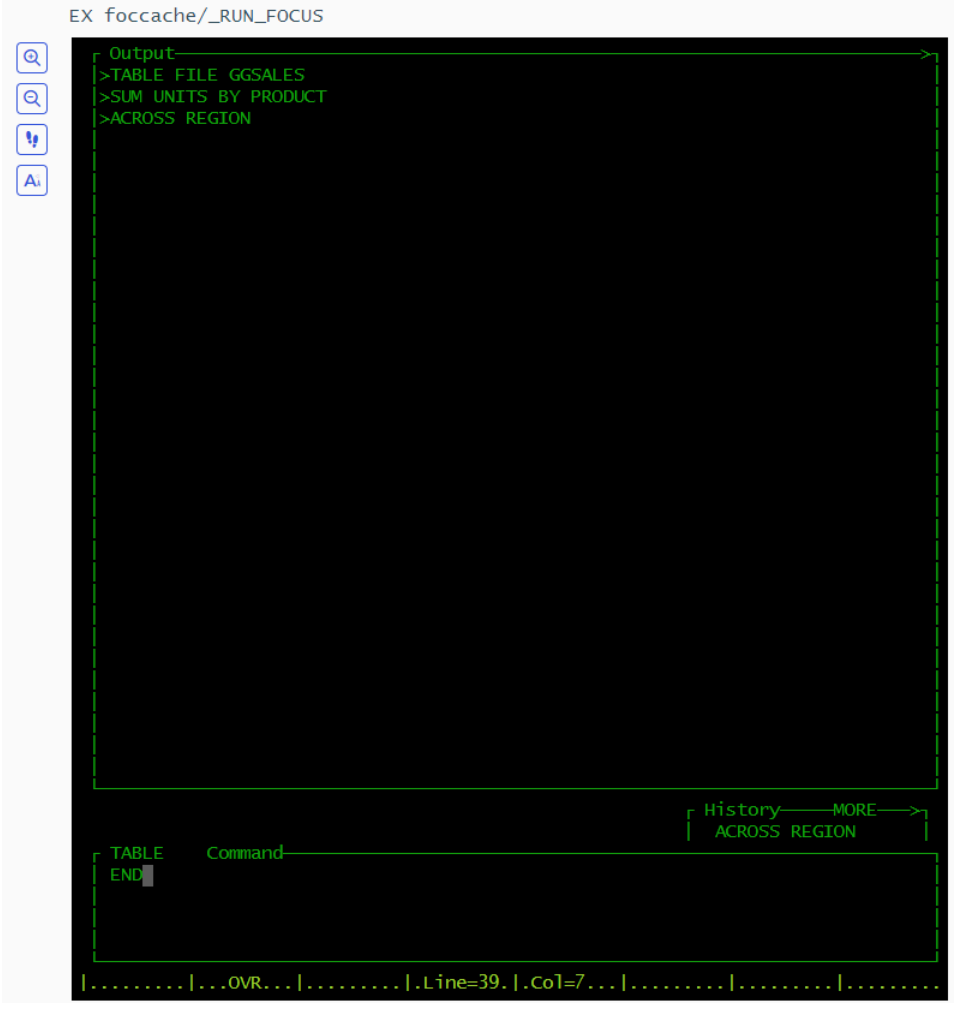
1. [FOCUS として実行] ボタンをクリックするか、プロシジャを右クリックして [詳細を指定して実行] FOCUS オプションを選択します。

出力ウィンドウ、履歴ウィンドウ、FOCUS コマンドウィンドウが、それぞれ画面上のデフォルト位置に表示されます。下図のように、FOCUS コマンドウィンドウはハイライト表示され、これが有効化され、コマンドまたはリクエストの入力準備ができていることが示されます。




2. FOCUS コマンドウィンドウにコマンドを入力し、各コマンドの入力後に Enter キーを押します。

下図のように、コマンドが、FOCUS コマンドウィンドウから出力ウィンドウに移動します。

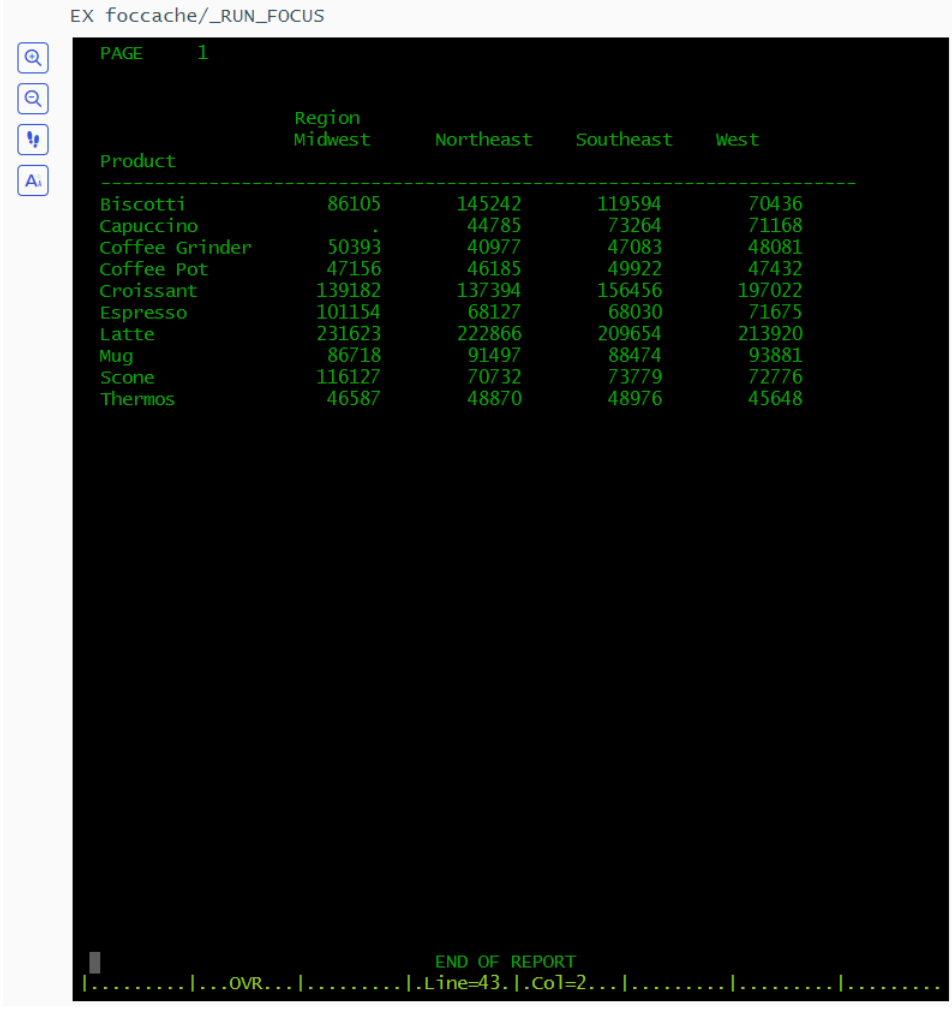


「END」と入力して Enter キーを押すと、下図のように、テーブル内のレコード数と出力内の行数を示すメッセージが表示されます。

```
EX foccache/_RUN_FOCUS

Output
>TABLE FILE GGSALES
>SUM UNITS BY PRODUCT
>ACROSS REGION
>END
NUMBER OF RECORDS IN TABLE=     4317  LINES=     10

PAUSE.. PLEASE ISSUE CARRIAGE RETURN WHEN READY

History      MORE

TABLE    Command

|..PROT...|...OVR...|.........|.Line=39.|.Col=3...|.........|.........|.........
```

3. Enter キーを押します。

下図のように、出力が出力ウィンドウに表示されます。




フルスクリーンの出力パネル左側のアイコンから、次のオプションにアクセスできます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| | パネルを拡大表示します。 |

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | パネルを縮小表示します。 |
| | 低レベルのトレースを表示します。トレースのデフォルト設定はオフです。 |
| | 端末表示をワイド (UTF) とナローで切り替えます。 |

手順

## TableTalk を呼び出すには

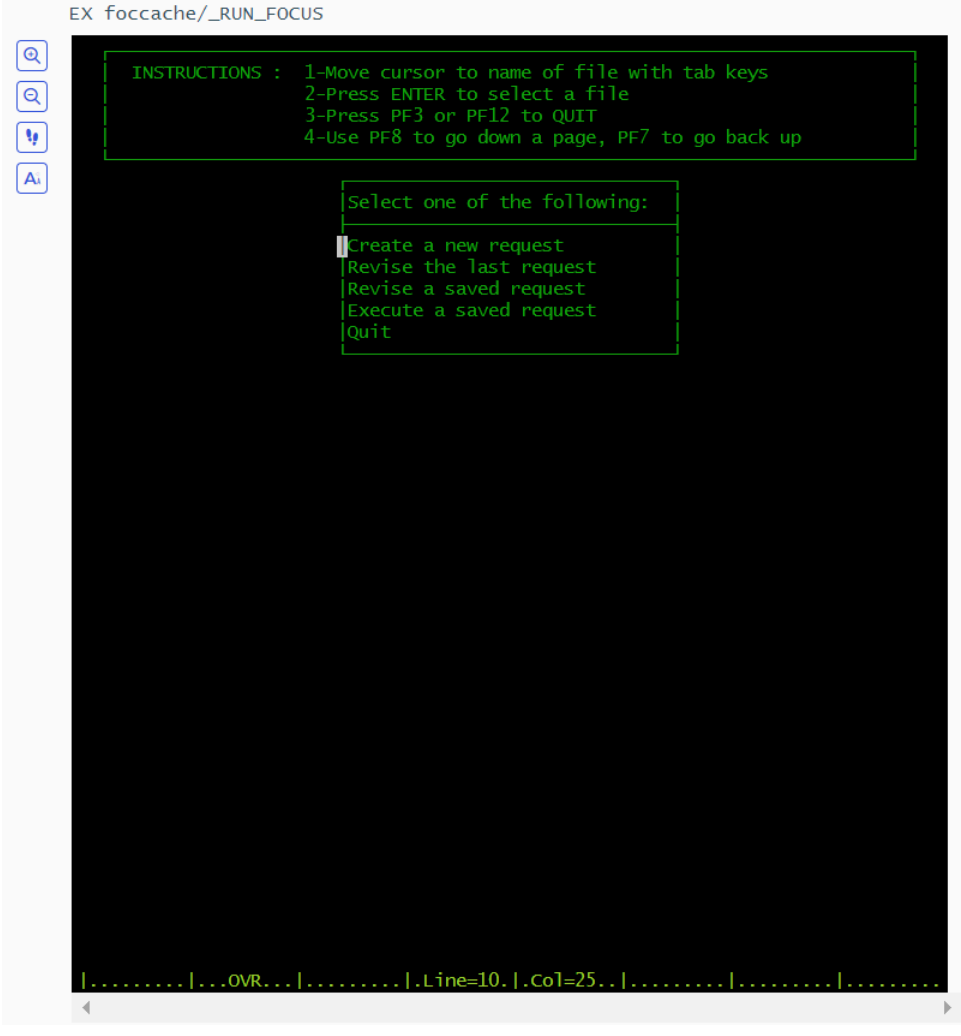
FOCUS TableTalk は、ウィンドウ駆動型のレポートリクエスト準備機能です。TableTalk を使用することで、プロンプトウィンドウからオプションを選択して、ユーザ独自のレポートリクエストをすばやく設計および記述できます。リクエストの作成後は、実行、修正、保存、クリアのオプションを使用できます。

1. TableTalk を呼び出すには、プロシジャに次のコマンドを入力します。

   TABLETALK

2. [FOCUS として実行] ボタンをクリックするか、プロシジャを右クリックして [詳細を指定して実行] FOCUS オプションを選択します。

下図のように、TableTalk ウィンドウが開き、リクエストの作成、修正、実行、または TablTalk の終了のプロンプトが表示されます。




プロシジャに次のコマンドを入力して、TableTalk を呼び出すこともできます。

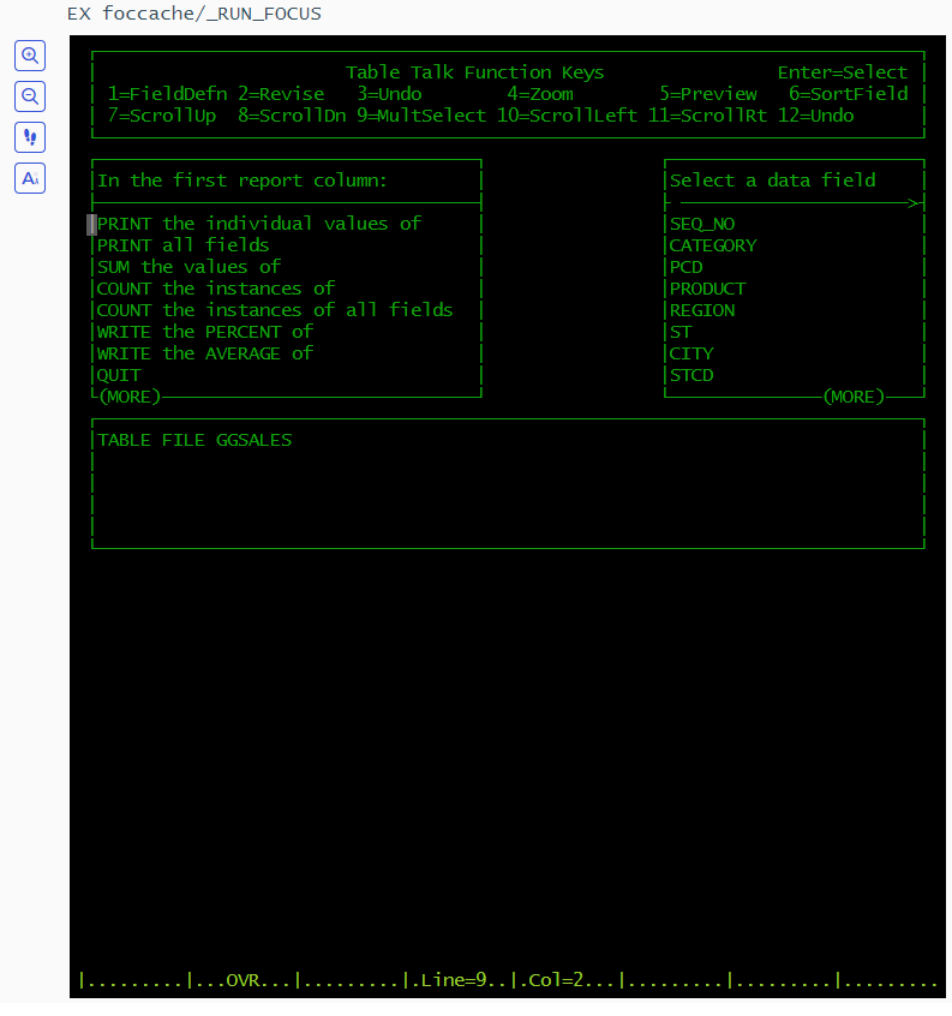
```
TABLETALK FILE filename
```

この場合、*filename* は、使用するファイルまたはビューの名前です。以下はその例です。

```
TABLETALK FILE GGSALES
```

**注意：**TABLETALK FILE コマンドにファイル名を追加することで、[File Selection] ウィンドウをバイパスできます。

ファイルの選択後 (この場合は GGSALES)、TableTalk に次の画面が表示されます。




3. プロンプトウィンドウからオプションの選択を続行し、レポートリクエストを作成します。

## 手順　ModifyTalk を呼び出すには

FOCUS ModifyTalk は、ウィンドウ駆動型のフルスクリーン、ファンクションキー指向の単一セグメントまたは複数セグメントファイルの MODIFY プロシジャ生成機能です。ModifyTalk を使用して FOCEXEC を作成し、FOCUS ファイルのレコードを表示、更新、追加、削除することができます。ユーザは、変更するファイルセグメントを選択し、必要なデータ管理アクションを選択するだけです。ModifyTalk は、新しいデータベース管理プロシジャのすべての画面と処理ロジックを自動的に生成します。

1. ModifyTalk を呼び出すには、プロシジャに次のコマンドを入力します。

   ```
   MODIFYTALK
   ```

2. [FOCUS として実行] ボタンをクリックするか、プロシジャを右クリックして [詳細を指定して実行] FOCUS オプションを選択します。

最初の ModifyTalk ウィンドウには、下図のように、編集可能なファイルのリストが表示されます。

```
EX foccache/_RUN_FOCUS

INSTRUCTIONS :  1-Move cursor to name of file with tab keys
                2-Press ENTER to select a file
                3-Press PF3 or PF12 to QUIT
                4-Use PF8 to go down a page, PF7 to go back up

Select one of these files:

brokers    :
car        :
carolap    :
cashflow   :
course     :
courses    :
dmcntr     :
dmhrinp    :
dmlocs     :
dmorecs    :
(MORE)

|.........|...OVR...|.........|.Line=10.|.Col=3...|.........|.........|.........
```

ファイルを選択するには、任意のファイル上にカーソルを置き、Enter キーを押します。

プロシジャに次のコマンドを入力して ModifyTalk を呼び出すこともできます。

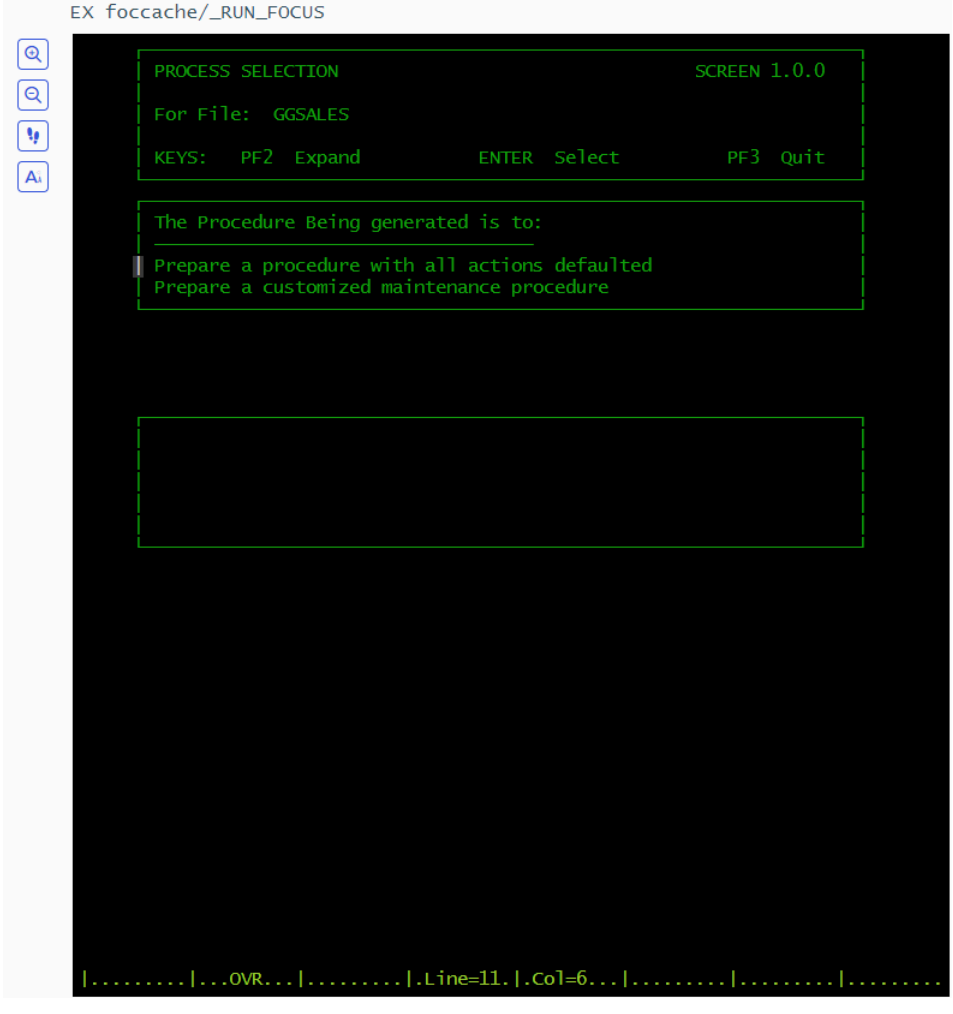
```
MODIFYTALK FILE filename
```

この場合、*filename* は、使用するファイルまたはビューの名前です。以下はその例です。

```
MODIFYTALK FILE GGSALES
```

**注意：**MODIFYTALK FILE コマンドにファイル名を追加することで、[File Selection] ウィンドウをバイパスできます。

ファイルの選択後 (この場合は GGSALES)、ModifyTalk に次の画面が表示されます。




3. プロンプトウィンドウからオプションの選択を続行し、すべてデフォルトオプションで管理プロシジャを準備するか、カスタマイズした管理プロシジャを準備します。
   - 上部ウィンドウには、説明および処理情報が表示されます。
   - 中間のウィンドウには、作成中のプロシジャで実行するアクションの選択が可能なオプションが表示されます。

- 下部ウィンドウには、選択ウィンドウの選択結果が表示されます。

## C ベースの ZIP ローカルモード

ユーザは、.xlsx ファイルをローカルで圧縮および解凍することができ、サーバとの通信は必要ありません。C ベース ZIP ローカルモードを実行すると、パフォーマンスが強化され、Reporting Server による直接呼び出しまたは WebFOCUS Servlet URL による呼び出しでも使用できます。

.xlsx ファイルの ZIP に C ベース ZIP ローカルモードを指定するには、プロシジャで次のコマンドを発行します。

```
SET XLSXLOCALZIP = ON
```

詳細は、WebFOCUS または FOCUS の『Language リファレンス』および『アプリケーション作成ガイド』を参照してください。

## データサイエンスの NOTRN 権限

全般権限は、Reporting Server ブラウザインターフェースおよび Data Migrator デスクトップインターフェースのコントロールページへのアクセスを定義します。

Reporting Server ブラウザインターフェースの [アクセスコントロール] ページでこれらの権限を確認およびカスタマイズするには、ロール、ユーザ、グループのいずれかを右クリックし、[全般権限] を選択します。全般権限は、ロール、グループ、ユーザの各レベルで設定することができます。いずれかのロールに登録されたグループおよびユーザは、権限がグループまたはユーザレベルでカスタマイズされていない限り、そのロールの全般権限を継承します。

下図のように、[データサイエンス] の [NOTRN] 権限が、全般権限に追加されました。[NOTRN] 権限を使用して、学習 DSML モデルを有効または無効にすることができます。学習 DSML モデルについての詳細は、『TIBCO WebFOCUS 利用ガイド』を参照してください。

Activate Providers ✕ General Privileges ✕

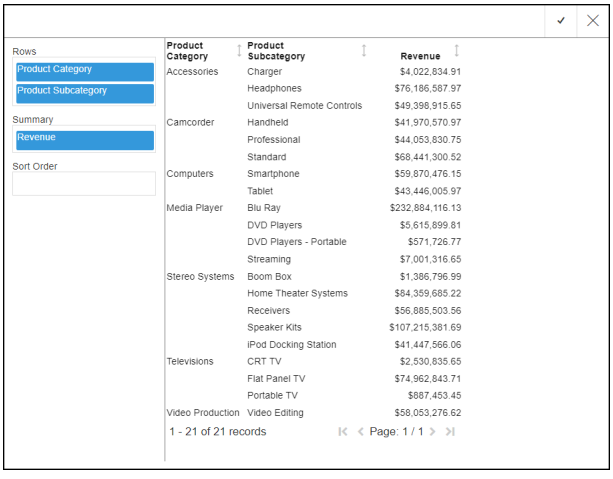
Role: Server Administrator

| Code | Privileges | Privilege Description |
|---|---|---|
| – Adapters and Core Server | | |
| ADPTP | ✓ | Configure Data Adapters for All Users |
| NODPT | | Disable Direct Passthru |
| NOSYS | | Disable Operating System Commands |
| – Metadata | | |
| METAP | ✓ | Launch Tools to Create/Edit/Upload Metadata |
| METUP | ✓ | Launch Tools to Upload Metadata |
| DATMG | ✓ | Data Management (Allows Users to Create DBMS Tables for the Synonym, Use Quick Copy, Upload to Relational Database and Re-load Data) |
| – Procedures | | |
| PRSAV | ✓ | Launch Tools to Edit Procedures, Upload Procedures |
| PRSTR | ✓ | Stress Tool |
| PRDFR | ✓ | Schedule/E-Mail/Submit |
| PRRPT | ✓ | View Output, DM Log and Statistics, Impact Analysis, Scheduler and Flow Reports |
| PROUT | ✓ | View Log and Output of Submitted Requests |
| – Data Science | | |
| NOTRN | | Disable Training DSML models |
| – Workspace | | |
| WSCFG | ✓ | Server Administrative functions(Access Control, Server Configuration and Migration, Scalability, Change Application Path) |
| GRANT | ✓ | Grant Permissions |
| MONIT | ✓ | Monitor Agents, Sessions, Connections and Services |
| KILAL | ✓ | Kill and Stop Agents, Sessions, Connections and Services |

## Analytic Document レポートコンテンツの編集機能の強化

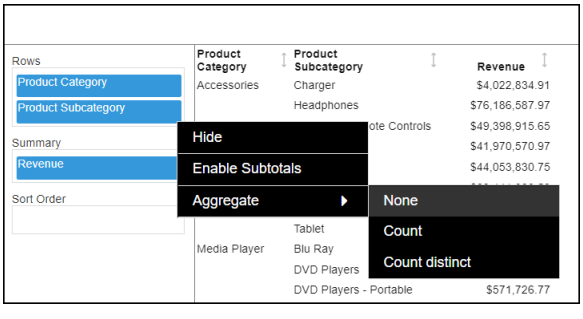
Analytic Document レポートの [編集] メニューオプションから幅広いソートおよび表示オプションにアクセスできます。

[オプション] メニューから [編集] オプションを選択すると、下図のように編集ツールが開き、レポート出力の再構成をサポートする新しい [ソート順序] バケットが表示されます。




フィールド名のタイルを [行] バケットまたは [SUM] バケットから [ソート順序] バケットに移動し、レポートのデフォルトソート順の割り当てを変更できます。

また、下図のように、フィールド名タイルのコンテキストメニューを使用して、一時項目 (COMPUTE) の表示、指定したフィールドに基づくカテゴリ中間合計の追加、フィールドの表示または非表示を行えます。




変更の完了後、更新したレポートを保存し、これらの変更を他のユーザに表示することができます。

## RemoteValues 呼び出しでの IBIMR_Random のカスタマイズ

HTML コンポーザ内で選択した RemoteValues 呼び出しの IBIMR_Random を削除する場合、埋め込み JavaScript または参照 js ファイルで直接、次の関数を HTML ファイルに追加することができます。

```
function
isUniqueRequestUser(controlId)
{
}
```

リクエストを実行する前に、この関数が呼び出されます。コントロールに入力する場合は、このコントロールの ID がパラメータとして渡されます。

戻り値は次のいずれかです。

- **true**　IBIMR_Random がリクエストに追加されます。
- **false**　IBIMR_Random はリクエストに追加されません。
- **varName=varValue 文字列**　リクエストに追加される文字列です。

## TIBCO WebFOCUS Data Migrator の強化

WebFOCUS Data Migrator の次の機能が強化されました。

### Data Migrator デスクトップインターフェースの強化

- [メタデータのリフレッシュ] オプションでは、すべてのシノニムが同一アプリケーション内に存在し、同一の SQL ベースアダプタを使用し、これらがストアドプロシジャシノニムでない場合は、複数のシノニムを同時にリフレッシュすることができます。
- [モデルの学習] オプションがシノニムのコンテキストメニューオプションに追加され、データの学習とテストが可能になりました。[回帰]、[二項分類]、[クラスタ]、[異常検知] のモデルタイプから選択できます。
- アプリケーションディレクトリフォルダから、[ファイルの比較] および [アクセスファイルの比較] 読み取り専用オプションを使用して、2 つのファイルをテキストエディタで比較することができます。
- データフローデザイナおよびプロセスフローデザイナの [ユーザ設定] ダイアログボックスで、[キャンバス上のメモを有効にする] オプションを選択すると、ワークスペースから直接データフローオブジェクトにコメントを追加できます。必要に応じて、任意のフローオブジェクト (例、JOIN、SELECT、ソース、ターゲット) にメモを追加し、テキストボックス内でメモを簡単に編集したり、管理したりできます。[ユーザ設定] ダイアログボックスの [キャンバス上のメモを有効にする] オプションを選択した場合、必要に応じてオブジェクトを右クリックして [メモの表示] を選択し、ワークスペースにメモを追加することができます。

- [ユーザ設定] の [実行オプション] ダイアログボックスで、[データプロファイリングレポート] の [すべての値を表示] オプションを選択すると、[テストレポートの最大カラム数] テキストボックスで指定したサンプルサイズに関係なく、すべての値がデータプロファイリングレポートに表示されます。
- Shift+F11 キーを押すと、データフローワークスペースで SQL オブジェクトの左側を右クリックしたときと同じコンテキストメニューが表示されます。
- Shift+F12 キーを押すと、データフローワークスペースで SQL オブジェクトの右側を右クリックしたときと同じコンテキストメニューが表示されます。
- Shift+F10 キーを押すと、データフローワークスペースで選択したオブジェクトを右クリックしたときと同じコンテキストメニューが表示されます。
- Data Migrator デスクトップインターフェースで複数のタブを同時に開き、同一サーバ内の異なるフローのログおよび統計レポートを表示することができます。
- エージェントにより実行された最後の FOCUS コマンドを新しいプロシジャとして保存し、Data Migrator デスクトップインターフェース以外で個別に実行することができます。この方法は、サーバで発生した問題のデバッグに役立ちます。

## TIBCO WebFOCUS Data Migrator の新しい関数

WebFOCUS Data Migrator の新しい関数は次のとおりです。

### 集計関数

- **APPROX_COUNT_DISTINCT**　フィールドまたは数式内の固有値の件数を概算します。
- **COUNT_BIG**　指定したフィールドまたは数式内の行数を計算します。値は、BIGINT データタイプとして返されます。
- **COUNT_BIG(DISTINCT)**　フィールドまたは数式内の固有値の出現回数を計算します (重複値を除く)。値は、BIGINT データタイプとして返されます。
- **PERCENTILE_CONT**　連続分布モデルを前提とした逆分布関数です。パーセント値とソート指定を使用し、このソート指定に関するパーセント値に分類される補間値を返します。
- **PERCENTILE_DISC**　不連続分布モデルを前提とした逆分布関数です。パーセント値とソート指定を使用し、このセットから要素を返します。

### 文字列関数

- **WORDPATTERN**　入力文字列の単語パターンを表す文字列を返します。

### 機械学習関数

- **RUN_MODEL** Python ベースの機械学習モデルをロードおよび実行します。新しいデータソースの予測子フィールド名が、モデルの生成に使用されたものと同一の場合は、RUN_MODEL 関数を使用します。
- **RUN_MODEL2** Python ベースの機械学習モデルを、上書き予測子を使用してロードおよび実行します。新しいデータソースの予測子フィールド名が、モデルの生成に使用されたものと異なる場合は、RUN_MODEL2 関数を使用します。

### SQL 分析関数

- **AVG(DISTINCT)** パーティションで指定した行グループに対し、固有値の平均を計算します。
- **CORRELATION** パーティションで指定した行グループに対し、2 つのフィールドまたは数式間の相関度を計算します。
- **COUNT_BIG(DISTINCT)** 行グループに対し、フィールドまたは数式内の固有値の個数を計算します。値は、BIGINT データタイプとして返されます。
- **COUNT_BIG** フィールドまたは数式内の行数を計算します。値は、BIGINT データタイプとして返されます。
- **COUNT(DISTINCT)** パーティションで指定した行グループに対し、フィールドまたは数式内の固有値の個数を計算します。
- **CUME_DIST** 値グループ内の値について、累積分布を計算します。
- **INCREASE** パーティション内の現在の行と前の行の値の差を計算します。
- **NTH_VALUE** フィールドまたは数式の N 番目の行からデータを取得します。
- **NTILE** 値が属するソート済みデータセット内のタイルを識別します。
- **PCT_INCREASE** パーティション内の現在の行と前の行の値の差をパーセントで計算します。
- **PERCENTILE_CONT** 連続分布モデルを前提としたパーセンタイルに基づくフィールド値を計算します。
- **PERCENTILE_DISC** 不連続分布モデルを前提としたパーセンタイルに基づくフィールド値を計算します。
- **ROW_NUMBER** 結果セット内の行番号を取得します。

- **SUM(DISTINCT)** パーティションで指定した行グループに対し、固有値の合計を計算します。

**SQL 日付時間関数**

- **FISCAL_YEAR** 入力日付の会計年度を返します。

## 修正済み問題

- WebFOCUS Designer のフィルタツールバーで、[実行時に指定] が設定されている場合、日付にすべての値が入力されません。(02057898)
- InfoAssist では、ブランクの値から作成されたフィルタが使用できますが、WebFOCUS Designer のビジュアライゼーションでは使用できません。(02068155)
- NLS のホームページの言語の選択リストで、トルコ語を選択する際に中国語が表示されます。(02090642)
- InfoAssist で、フォーマットが可変長アルファのローカル変数 (&) を使用する DEFINE ステートメントを含むプロシジャを編集する際に、エラーメッセージが生成され、編集できません。(02083455)
- ユーザが InfoAssist で保存済みのファイルを開こうとする際に「FOC205: マスターファイルがありません」というエラーメッセージが表示されます。(02085499)
- [共有の設定] オプションで、項目がアルファベット順に表示されません。(02028336)
- 既存レポートは期待どおりに実行されますが、InfoAssist で開いた後実行できなくなります。(02086978)
- 既存の InfoAssist レポートを開き、フォーマットを [HTML] から [ファイル] に変更すると、Tomcat CPU がハングアップします。(02087067)
- InfoAssist で、JOIN マスターファイルと同一名を使用した HOLD ファイルを保存すると、ブラウザのハングアップまたはクラッシュが発生します。(02030204)
- InfoAssist でセグメント長を増やしてレポートを開くと、HOLD SEGMENT 名がコードと一致しないため、「フィールドが見つかりません」というエラーがユーザに返されます。(02092660、02088727、02111230、02118252)
- WebFOCUS App Studio のアップグレード後に、HTML ページがロードされません。(02083429)
- 遅延読み込みで ACCEPT 句を含むマスターファイルを使用した場合、IBIMR_domain 変数および IBIMR_fullpath 変数に wf_reposobj.handle が含まれます。(02078389)

- ReportCaster ジョブが、手動で実行可能な場合でもスケジュール時間に実行できません。(02094410)
- ReportCaster の一時フォルダ内のレポートが、配信スケジュールの完了後に削除されません。 (02030865、02080320)
- Kerberos セキュリティを設定した場合、ユーザは、WebFOCUS ポータルグループを WebFOCUS Reporting Server に渡すことができません。(02067334)
- WebFOCUS Designer 権限を追加すると、InfoAssist 権限が有効化されます。(02091130)
- WebFOCUS の [Designer のプロパティ] で、[データプレビュー方法] として [テスト] が選択されている場合、[サンプル] および [ライブ] ボタンが無効化されます。(02057261)
- ドリルダウンパラメータを含むプロシジャの編集時に、QUOTESTRING を余分に追加すると FOC002 エラーメッセージが返されます。(02101458、02119484)
- App Studio で、[選択項目を保存] オプションを使用した場合、値に 2 つの一重引用符 ('') が含まれるコントロール値が保存されません。(02068772)
- App Studio で HTML ファイルを実行した後、実行画面のページ/検索ウィジェットで [すべて] の値をダブルクリックして選択した場合、[選択値を保持] オプションが選択できません。(02079411、02084327)
- App Studio で、サイトプロファイルに -SET &ECHO = ALL; コマンドが含まれる場合、SQL レポートが作成できません。(02081980)
- App Studio のページ/検索ウィジェットの [選択値を保持] オプションでは、[すべて] の選択を解除する必要があります。(02084323)
- App Studio のポップアップスタイルを有効にしたドロップダウンリストでは、2 つのリクエストが作成されます。(02088121)
- App Studio で、['選択なし' オプションの追加] および ['すべて' オプションの追加] が有効の場合、連鎖コントロールから値が返されません。(02030001)
- App Studio では、HTML ESRI マップからマップレイヤを選択することができません。(02087622)
- App Studio のダブルリストコントロールで、右側パネルに項目を移動後に左側パネルに戻すと、初期表示と異なる順序で表示されます。(02088531)
- App Studio で、URL コンテンツを別の App Studio 環境にコピーすると、この URL が機能しなくなります。(02087475)

- opShortcut 権限がユーザのロールから削除されると、コンテキストメニューの [ショートカットの作成] がレガシーページで表示されます。(02068424)
- InfoAssist のグラフデータで作成したビジュアライゼーションで、フィルタを削除した後にテーブルがリフレッシュされません。(02063124)
- BV_NAMESPACE=OFF プロパティが設定され、異なるフォルダで同一フィールド名が使用された場合、これらが 1 つに結合されます。(02056606)
- SQL エディタの変更がビジュアライゼーションで保存されません。 (02110810)
- App Studio で選択条件を指定せずに HTML ファイルを実行すると、ダブルリストの周囲に赤色のボックスが表示されます。(02111910)
- InfoAssist のプロシジャの編集時に、8 バイトより長いセグメント名を設定しようとすると、ユーザは別のフィールドを選択するよう要求されます。(02111230)
- 出力ファイル名に日本語が含まれていると、FTP 配信方法でファイルを配信できません。(02078861)
- [合計値でソート] メニュー項目のいずれかをクリックすると、標準レポートで不明なエラーが発生します。(02046542)
- [合計値でソート] で新しい項目を選択した際に、選択解除されたメニュー項目のチェックマークが削除されません。(02046542)
- WHERE ステートメントで数値に対して EQ が使用され、MISSING が生成された際に、MISSING が先頭でない場合、InfoAssist はエラーを受信します。(02067607)
- App Studio でページ/検索コントロールを使用する場合、ドロップダウンの値が変更されても警告メッセージが表示されません。(02106752)
- オートドリルダウンを有効にし、リンググラフを使用すると、ビジュアライゼーションの編集ができません。(02115852)
- ドリルダウンレポートのリンクをクリックすると、NULL 値が、ピリオド (.) ではなく _FOC_MISSING を返します。(02115676)
- 日本語のマスターファイルからビジュアライゼーションを作成する場合、フィルタパネルのフィールド値が疑問符 (?) で表示されます。(02119228、02116497)
- Active Report で条件付きスタイル設定が機能しません。(02027108)
- InfoAssist でバルクロード設定が ON の場合、Hyperstage フォーマットで HOLD ファイルが作成できません。(02028163、02094651)

- [ワークスペース] コンテンツエリアの [リストビュー] で、[未公開] と [非表示] のドイツ語翻訳が正しくありません。(02132675)
- [最近の更新] ワークスペースの [リストビュー] で、[最終アクセス] 日付ではなく [最終更新日] の列が表示されます。(02049923)
- 以前のバージョンの InfoAssist で作成された、JOIN、DEFINE、および HOLD を含むプロシジャを現在のバージョンで開くと、「フィールドが見つかりません」というエラーがユーザに返されます。(02085597、02084981、02086230、02086542)
- InfoAssist でレポートを開くと、CPU 使用量が増大し、ブラウザがハングアップします。(02113472)
- 単一の親から複数のオートプロンプトの連鎖が生成されません。(02096540)
- ビジュアライゼーションでのページの作成で、数千のフィールドを含むコンボフィルタを使用し、選択コントロールが有効の場合、1 つを残してすべてのフィールドを選択すると、「変数値の長さが最大値を超えています」というエラーメッセージが返されます。(02101606)
- 同一フィールド名を使用する 2 つのセグメントを含むクラスタで Designer のビジュアライゼーションを作成すると、フィルタ変数が同一のため、最初に選択したフィルタ値が、別のセグメントの 2 つ目のフィルタで反復されます。(02053870)
- WebFOCUS Designer の集約ページまたは新規作成ページで、マウスホイールを使用してページを上下にスクロールすると、ドロップダウン値のリストが分離されてページ上を浮動します。(02126924)
- App Studio で、複数の値がテキスト領域でそれぞれ別の行に表示されず、カンマ区切りの単一文字列として表示されます。(02118983)
- ACROSS フィールドが SUB-TOTAL および ACROSS-TOTAL とともに使用された場合、数式が数式セルに表示されません。(02077194)
- App Studio サーバ下の [アプリケーション] フォルダでファイルを複製しようとすると、ユーザにエラーが返されます。(02101535)
- 実行時に集約ページにコンテンツを追加すると、適切なテーマにアクセスできず、エラーメッセージが表示されます。(02030339)
- ドリルエニウェア機能で、フィールドを下方向へスクロールできません。(02104562)
- InfoAssist でのマスターファイルの選択時に、2 バイト文字セット (DBCS) のアプリケーションディレクトリを使用すると、baseapp フォルダが削除されます。(02077509)

- COMPUTE ステートメントおよび DEFINE ステートメントの結果の値は、サンプルデータに含まれる必要があります。(02074776)
- XFOCUS ファイルと LOCATIONS の連結を使用すると、FOC1850 エラーメッセージが返されます。(02096209、02122176、02130365)
- OUTLIER 関数で、正しい結果が返されません。(02085282)
- App Studio で、出力フォーマット (&WFFMT) のタイプを選択するコントロールを含む HTML ページを実行すると、コントロール内の表示値の前に文字列が追加されます。(02098390)
- App Studio で、値を削除し検索を選択した後に、連鎖先の [ページ/検索コントロールの追加] に結果が表示されます。(02120780)
- App Studio で、データが JSON フォーマットの場合にコントロールの入力でエラーが発生します。(02120462)
- App Studio で、ファイル名の日本語が疑問符 (?) で表示されます。(02119522)
- App Studio で、ラジオボタンリストの値を下位から上位へドラッグすると、上位の値が下位に移動せず自動的に削除されます。(02113700)
- カレンダーコントロールのテキストボックスに入力した無効な値が、有効な日付に自動的に変換されます。(02111855)
- App Studio で、複数コントロールにキャッシュを設定するために使用されるプロシジャが複数回呼び出されます。(02122288)
- App Studio で、保存済みパラメータセットのロード後に、ロードされた値に保存した日付と異なる日付が表示されます。(02122347)
- 作成済みの V4 ポータル上で F8 キーを押すと、実行時に TIBCO WebFOCUS リソースツリーが表示されます。(02103852)
- [ワークスペース] フォルダに 2 回目にログインしようとすると、一般的な SCM 例外エラーがユーザに返されます。(02018822、02125980、02123596)
- [Git/ソース管理] 下のコンテキストメニューで [ソース管理から削除] を選択すると、「ソース管理の例外」エラーが発生します。(02078864、02125980、02123596)
- [Git リビジョン変更点] ウィンドウのソースコードの差分リストに日本語が正しく表示されません。(02092028)

- ソース管理で、[マスターに切り替え] メニューオプションを選択すると、「-CHECKOUT-SCM_GIT_API_GENERIC_EXCEPTION: Generic GIT API」という一般的な SCM 例外メッセージが生成されます。(02078858、02123596)
- [セキュリティセンター] で複数ユーザを含むグループを選択した場合、画面下部の最新のユーザが日本語で正しく表示されません。(02095576)
- 管理コンソールで [パスワードの変更を有効にする] のチェックをオフにした場合でも、WebFOCUS Designer ポータルで [パスワードの変更] オプションが無効になりません。(02044122)
- Kerberos セキュリティが設定された Linux WebFOCUS Reporting Server への接続で、TCP/HTTP リスナがクラッシュします。(02118533、02133061)
- ACROSS ステートメントを含む Active Report の SUM フィールドで NOPRINT を使用すると、一部のフィールドで条件付きスタイル設定が失われます。(02029681、02032905)
- Active Report で FREEZE-COLUMN を設定すると、条件付きスタイル設定が正しく機能しません。(02028383)
- Linux WebFOCUS Reporting Server で、値にアンダースコア (_) を含む Oracle テーブルにアクセスしてレポートを作成する場合、このフィールドに対して WHERE 条件が発行されるとレポートが作成されません。(02057413)
- Google Analytics アダプタの設定時に、「Error 400: Invalid Request」というエラーがユーザに返されます。(02087750、02124107)
- DBA セキュリティを使用し、WHERE 句の NOPRINT フィールドを参照すると、エージェントクラッシュが発生します。(02083342)
- シノニムの [詳細オプション] で、ユーザは [ランダムサンプリングの制限値] オプションを見つけることができません。(02085224)
- キャッシュが ON に設定され、フィールドにブランクの値が含まれる場合、DBLOOKUP では最初の行にピリオド (.) が含まれます。(02077168)
- オフセットが 64K を超える場合、パック 10 進数フィールドから整数フィールドへの変換が正しく機能しません。(02082185)
- 特定のタイプのデータファイルで DATASET コマンドを使用すると、FOC1006 エラーがユーザに返されます。 (02102831)
- サーバのリソース管理が有効の場合、管理者は、ユーザ当たりの接続数を 1 つに制限できません。(02079195)

- Excel レポートでフィールド値にサロゲートペア () 記号が含まれている場合、tscom3.exe の CPU 使用量が 50% 増加します。(02018613)
- WebFOCUS Hub のナビゲーションエリアで、Reporting Server のメニューオプションが未認証ユーザに表示されます。(02059107)
- Reporting Server で、結合されたプロバイダ名とグループ名に 9 バイト以上の文字が含まれる場合、グループプロファイルが適用されません。(02089671)
- WebFOCUS Designer で、マスターファイルの変数の入力が無視されます。(02030312、02030940、02030512)
- 引用符で囲まれた定数が 32K オフセットを超えた場合、ユーザに FOC257 エラーが返されます。(02086833)
- 地理情報を含むメタデータをリフレッシュすると、すべての一時項目 (DEFINE) が作成されません。(02101422、02128603)
- EXL2K フォーマットを使用したレポートは、Reporting Server ブラウザインターフェースからのダウンロード後に EXCEL で開こうとするとクラッシュします。(02107330)
- FILTER を設定したシノニムに対して SET FILECASE=ACTUAL コマンドを使用すると、FILTER が無視されます。(02117270)
- CLM サーバに対するプロシジャの 1 回目の実行後、WebFOCUS Client は CLM サーバに再びクエリを発行せず、すべてのレポートが同一の WebFOCUS Reporting Server に対して実行されます。(02114473)
- WebFOCUS Designer でビジュアライゼーションを編集すると、縦分割軸が縦 2 極軸に変更されます。(02033758、02053305)
- iPad から Excel ファイルをダウンロードすると、テキストが正しくデコードされません。(02107686、02134064)
- ポータルページのスクロール時に、[フィルタ] リストボックスがポータルページ上で浮動し、ユーザがキャンバス上でクリックした場合のみ折りたたまれます。(02122769)
- Solr クラウドを使用して接続しようとすると、ログに「Solr instance is not running in SolrCloud mode」というエラーが表示されます。(02105552)
- IBI_SESSION_TIMEOUT を設定し、WebFOCUS にログインすると、タイムアウトメッセージが表示され、[OK] を選択しても表示が保持されます。(02031441)
- Data Migrator デスクトップインターフェースのファイルの検索で、ファイルリストが返されません。(02112031)

- レポートに多数のカラムが含まれる場合、レポート出力キャッシュが削除されます。(02122061)
- ON TABLE MERGE INTO FILE コマンドを使用したプロシジャの事前解析で、メモリ不足エラーが発生します。(02124707)
- 現在存在しないプロシジャまたはフォルダから生成されたディファードレポートチケットを削除できません。(02097763)
- ReportCaster の Email スケジュールで、[宛先] と [返信アドレス] が繁体字中国語に正しく翻訳されません。(02123632)
- InfoAssist の複合レポートを開く際に時間がかかります。(02112934)
- WebFOCUS Designer ページのカスタム JavaScript の JavaScript 関数は、このページのコンテンツのドリルダウンリンクを使用して実行した場合にエラーが発生します。(02029110)
- App Studio で、同一トリガタイプと同一トリガ ID を使用した複数のトリガがタスクとアニメーションに存在する場合、一連のイベントの最初のタスクのみが実行されます。(02127255)
- サイズの大きい CSV ファイルは、WebFOCUS Client を使用してアップロードすることができません。(02122290)
- App Studio のパラメータの保存機能は、[複数] が設定されているかどうかで動作が異なります。(02127051)
- ページデザイナを使用してフィルタをロードすると、パフォーマンスの問題が発生します。(02102927)
- WebFOCUS Designer のオートプロンプトページを使用すると、複数選択リストに [すべて] メニューオプションが表示されません。(02115235)
- フィルタが [フィルタ] ツールバーからページデザイナの [グリッド] コンテナに移動されると、クラスまたは ID に関連する JavaScript がページロードに反映されなくなります。(02121618)
- WebFOCUS のワークスペースで、ワークスペースツリー領域の幅を拡張した後にファイルのコンテキストメニューから [プロパティ] を選択した場合、[プロパティ] パネルが表示されません。(02029423)
- シノニムを切り替えたり、セッションをキャンセルしたりすると、ユーザは Quick Data Excel アドインで JavaScript エラーを受け取ります。(02100032)

- App Studio で、複数のコントロールが存在する場合に HTML レポートの表示に時間がかかります。(02095945)
- 管理コンソールの [構成] タブの [アプリケーションコンテキスト] ページの設定に割り当てられた更新済みの値は、[構成] タブの他の設定の値を更新するとデフォルト値に戻されます。(02054946)
- Excel アドインを含む WebFOCUS Quick Data モジュールを再度開くと、スクリプトエラーがユーザに返されます。(02100044)
- 国際言語サポートで、文字化けした文字「xx」を使用したドリルダウンが「??」として返されます。(02094255)
- P8YYMD または I8YYMD の日付フォーマットで PCHOLD FORMAT XLSX を使用すると、出力が日付フォーマットではなく数値で表示されます。(02127888)
- MARKUP=ON REPLACE <space> コマンドを使用すると CPU 使用量が増大します。(02121572)
- Google BigQuery アダプタを介して発行された各プロシジャクエリは、重複したクエリを自動的に生成します。(02133708)
- Data Migrator の [ログと統計] オプション使用時に、ユーザは統計ログの複数タブを開くことができません。(02112012)
- SUBSTRING 関数が、コードページ UTF-8 を使用したソース文字列から 8189 バイトのみ抽出します。(02125914)
- WHERE 句に DB_FILE ステートメントを含むプロシジャで、このプロシジャに SET XRETRIEVAL=OFF コマンドも含まれる場合にエラーメッセージが生成されることがあります。(02034698)
- SOLR インデックスが有効な場合、HOLD FORMAT SOLR の誤検出は、SQL データベースリクエストに対する HOLD によって発生します。(02138861)
- P17.x フォーマットの一時項目 (COMPUTE) は、LAST コマンドおよび ACROSS ステートメントを含むリクエストで使用された場合、データを表示できません。(02133011)
- FOCUS の 64 ビットバージョンでは、未認可 FOCUSNA モジュールをリンクする JCL が機能しません。(02074776)
- MORE と DB_EXPR の組み合わせを使用すると、「(FOC32605) SQL に特化する構文の式は最適化できません」というエラーメッセージが返されます。(02134484)

- 長い文字フィールド (4000 から 32000) がミッシング値を含み、バイナリフォーマットの HOLD ファイルに追加されると、ランダムに異常終了が発生します。(02062840、02069624)
- ユーザインターフェースが一部翻訳されていません。(02029086)
- ロードバランサーを使用して WebFOCUS にログインすると、HTTP 404 エラーが発生することがあります。これは、[リダイレクト /ibi_apps 先] がカスタムようこそページ (ポータル) の場合に発生します。(02130180)
- PostgreSQL テーブルの JOIN および DB_INFILE で負荷テストを実行すると、エージェントクラッシュが発生します。(02058267)
- DBA セキュリティを含むシノニムを使用した場合、データ領域にメタデータツリーが表示されません。(02063867)
- 以前のバージョンの InfoAssist で作成したプロシジャを開くと、FOC370 エラーがユーザに返されます。(02111540)
- 上部ナビゲーションバーで選択したフォルダ上にマウスポインタを置くと、誤ったツールヒントが表示されます。(02123246)
- ポータルまたは集約ページから Sankey HTML5 グラフを実行すると、[インサイト実行] リンクを有効にすることができません。(02071059)
- 任意のデータを含むマスターファイルからサンプルデータを表示すると HTTP リスナがクラッシュします。(02127912)
- BV フォルダと同一名のセグメントでサンプルデータを実行すると、セグメントとフィールドのリストが重複します。(02032824、02073742)
- Data Migrator では、z/OS 上の IBM Db2 へのアップロードで、[ディスクファイルによるバルクロードユーティリティ] オプションが自動的に有効化できません。(02084886)
- 取得されるデータが 50 件のレコードに制限されるため、ユーザによるデータプロファイル時のデータ異常値の検出が困難です。(02112314)
- データフローモデルの使用時に、レポートが表示されません。(02094957)
- 統合インストールを使用して、機械学習関数またはモデルを実行すると、FOC32492 Python スクリプト実行エラーが発生します。(02033711)
- Microsoft SQL Server OLE DB/AzureDB アダプタを使用して、Microsoft OLE DB Driver 19 for SQL Server に接続できません。(02117540、02126725)

- InfoAssist では、HOLD ファイルにマスターファイルと同一名が付けられているレポートを編集するとハングアップが発生します。(02037161)
- ReportCaster では、EDASERVE が trusted に設定されている場合に、ユーザはリポジトリからダイナミックリストプロシジャを保存することができません。(02031902)
- ユニークセグメントを含む FOCUS ファイルにレコードを挿入しようとすると、「(FOC03761) 重大なエラー：qfslog::endTrans Segment size exceeds limit of 3832 messages」というエラーが表示されます。(02124660)
- App Studio MAINTAIN で、ClickRow プロパティを含む単純な HTML テーブルをマイグレートすると無効なコードが生成されます。(02071247)
- ReportCaster の配信時に、「レポートを保存できません。保存先 - ReportLibrary: "java.lang.NullPointerException"」というエラーがユーザに返されます。(02062943)
- App Studio で、ダブルリストコントロールのプロセス実行時に、括弧と特殊文字を含む値が検索で機能しません。(02130521)
- Oracle 環境のプロファイルで、JOIN が SET FOCTRANSFORM=NESTED_CLUSTERS/ON コマンドで使用された場合、FOC890 エラーがユーザに返されます。(02036675)
- ポータルのリストビューでは、[オーナー] カラムのチェックをオンにするとコンテンツが表示されなくなります。(02129162)
- ユーザは、FILE¥IBFS_template ディレクトリに格納されたカスタムドメインテンプレートにアクセスしたり、この同一ディレクトリにフォルダを作成したりできません。(02105571、02107791)
- WebFOCUS Designer の Active Report でフィールドを選択し、このフィールドで DISTINCT を使用してグラフを作成すると、誤った件数が生成されます。(02138687)
- [リクエストヘッダ認証] の一部として送信されたユーザ ID の変更は、データベースに保存されたユーザ ID と異なる場合、「HTTP 403 Forbidden」エラーの原因になります。(02083485)
- App Studio で、HTML キャンバスページのロジックが期待どおりに機能せず、これらで実行するアプリケーションでエラーメッセージが生成されます。(02131845、02141123)
- 管理センターで [アクセスコントロール] と [サーバのユーザ設定] を切り替えた場合、EDAPRINT ログファイルに「 CSRF token 'IBIWF_SES_AUTH_TOKEN' is missing」という警告メッセージが表示されます。(02138744)

- [新規ページの作成] で、コンボボックスから選択することができません。(02029832、02029898)
- ページ/検索コントロールの使用時に、ドロップダウンの値が変更されても警告メッセージが表示されません。(02106752)
- SharePoint アダプタの使用時に、このアダプタ接続を使用してリストのメタデータを作成すると、リストが返されません。(02116282)
- ソースに 50 件以上のレコードが含まれる場合、データ管理プロセスで構造の正しくない XML ファイルが作成されます。(02116522)
- PostgreSQL アダプタの使用時に、特殊文字を含むパスワードを使用するとバルクロード処理でエラーが発生します。(02079009)
- 日本語システム上の Data Migrator でフローを実行すると、予期しない JSON EOF エラーメッセージが表示される場合があります。これは、日本語の DBCS コードページによるエラーテキストの不適切な処理が原因です。(02109519)
- Seg 11 障害により、Data Migrator フローが応答を停止します。(02118119)
- PDS 展開でのリソース管理の構成で、「(FOC422) THE FOCUS FILE IS NOT ON A WRITABLE DISK.CANNOT MODIFY」というエラーメッセージが表示されます。(02034573)
- STRREP 関数で FOC_ コマンドを使用すると、WebFOCUS Client から Run As Deferred Report が発行された場合に、WebFOCUS Reporting Server の SCHEDULER サービスがクラッシュします。(02103790)
- MVS サーバから InfoAssist レポートを作成すると、エラーが発生し、InfoAssist の起動時にブランクの画面が表示されます。(02034291)
- Salesforce アダプタを使用し、SUM を含み、キーを含まないリクエストを発行すると、iWay Data Migrator のエージェントクラッシュが発生します。(02096822)
- [データのアップロード] メニューオプションを使用して、Hyperstage テーブルを手動で作成することができません。(02076812)
- Oracle テーブルに対する TABLE リクエストに SUM、COMPUTE、LAST、ACROSS コマンドの組み合わせが含まれている場合、WebFOCUS Server エージェントがクラッシュします。(02076590)
- フィルタでは、部分的な DATE は MDYY[m|q|y] フォーマットと互換性がありません。(02031230)

- SET LANGUAGE=JAPANESE および SET DATEOUTPUT=LOCALIZED コマンドを含むワークスペースで実行されるプロシジャは、日本語フォーマットの &DATEYYMDtr を使用する日付値を解析できません。(02032154)
- WebFOCUS 開始ページは、CSRF トークンの名前と値を示す GET リクエストを発行します。(02085296)
- データ管理コンソールでロードの最適化を使用せずにフローを実行すると、QWQDMAUTH ロードエラーが発生します。(02076632)
- サーバログに表示される新しいメッセージは混乱を引き起こすため、価値がない場合は削除する必要があります。(02076616、02090912、02094095)
- WebFOCUS Designer フィルタツールバーに A1 タイプのメジャーフィールドを追加すると、エラーが返されます。(02069784)
- InfoAssist でブランクの値を含むフィルタを編集する場合、フィルタが ALL に設定されていない限り、マウスポインタを置いた際にブランクの値が表示されません。(02030704)
- ユーザは、フィールドがブランクになる可能性がある定義済みフィルタを使用して、ビジュアライゼーションを作成できません。(02030703)
- BUCKET=x 軸コマンドを実行しても、正しいグラフが表示されません。(02051046)
- App Studio MAINTAIN のマイグレードで、静的チェックボックスが事前設定されていないため、値を受け取ることができません。(02131843)

## アップグレードに関する注意事項

- WebFOCUS バージョン 9.1.0 では、x86_64 または IBM Power System アーキテクチャを使用する Reporting Server での Red Hat Enterprise Linux 6 (Linux kernel 2.6.32) はサポートされなくなりました。詳細は、73 ページの 「 ibi™ WebFOCUS Client でサポートされるオペレーティングシステム 」 および 75 ページの 「 サポート対象の Web サーバおよび Application Server 」 を参照してください。

  サードパーティベンダーが、オペレーティングシステムでのサポートの終了または特定のバージョンでの機能強化または問題修正の提供中止を公表した場合、WebFOCUS でのこのバージョンのサポートも終了します。

- WebFOCUS バージョン 9.1.x へのアップグレードには、Hyperstage で使用される PostgreSQL の上位バージョンが同梱されます。以前のバージョンの WebFOCUS で作成された Hyperstage データベースは、このバージョンと互換性がありません。アプリケーションで Hyperstage が使用されている場合は、バージョン 9.1.x へのアップグレードは推奨されません。

  アップグレードインストールを実行すると、更新を続行することへの同意を求めるメッセージが表示されます。Hyperstage がアプリケーションで使用されていない場合のみ、更新を続行してください。それ以外の場合は、更新を完了せずインストールを中止してください。

- データフロー内の学習済みモデルに対するデータの実行が、より簡単になりました。学習済みのすべてのモデルから選択する必要がなくなりました。データに適用できる学習済みモデルのみが表示されます。関数フォルダを参照して適切な関数を探す代わりに、選択した学習済みモデルに基づいて新しい関数が定義され、関数アイコンがデータフローに自動的に追加されます。データを実行すると、ターゲットモデルがデータフローに追加されます。

- バージョン 9.1.0 以降、WebFOCUS Reporting Server のシステムファイル構成から、特定のアダプタのサブディレクトリおよびサードパーティ製ソフトウェアが除外されています。

  **Windows の場合**　Amazon Athena、Apache Kafka、Oracle、Amazon Redshift、Snowflake Cloud Data Warehouse の各アダプタ、およびそれらに含まれるサードパーティソフトウェアの次のサブディレクトリが、drive:¥ibi¥directory¥srv¥home¥etc¥dbms ディレクトリから削除されました。

  - ath
  - kafka
  - oracle_instant_client
  - rds
  - sno

  **Linux の場合**　Microsoft Azure Synapse Analytics、Amazon Athena、Apache Kafka、PostgreSQL、Snowflake Cloud Data Warehouse の各アダプタ、およびそれらに含まれるサードパーティソフトウェアの次のサブディレクトリが、install_directory:/srv/home/etc/dbms ディレクトリから削除されました。

  - adw

- ath
- kafka
- pstgr
- sno

サードパーティソフトウェアのインストールおよび構成についての詳細は、ベンダーのマニュアルを参照してください。

# 4 リリース情報

ibi™ WebFOCUS® バージョン 9.1.0 の関連情報は、各トピックから参照できます。

トピックス


- ブラウザ情報
- ibi WebFOCUS のアクセシビリティ準拠
- ibi™ WebFOCUS Client でサポートされるオペレーティングシステム
- ibi WebFOCUS での Java Platform、Standard Edition (Java SE) のサポート
- サポート対象の Web サーバおよび Application Server
- WebFOCUS Client リポジトリでサポート対象の RDBMS およびドライバ
- ローカリゼーション (NLV) および NLS の制限事項
- ibi WebFOCUS レポート および Microsoft Office のサポート


## ブラウザ情報

ここでは、WebFOCUS の各バージョンで使用可能な Web ブラウザについて説明します。

- 弊社では、ブラウザベンダーのサポートポリシーを評価し、最新バージョンが使用可能になり次第、随時新しいブラウザバージョンを動作保証します。
- 以下のブラウザベンダー使用要件を参照して、最新の Web ベース機能を提供する Web 標準がサポートされ、セキュリティの保証されたブラウザを使用することをお勧めします。

**サポート対象の Web ブラウザ**

| バージョン | **Google Chrome** | **Firefox** | **Microsoft Edge (WebFOCUS のみ)** |
|---|---|---|---|
| 9.1.2 | バージョン 114 | バージョン 113 | バージョン 114 |
| 9.1.1 | バージョン 109 | バージョン 108 | バージョン 109 |
| 9.1.0 | バージョン 106 | バージョン 105 | バージョン 106 |

| バージョン | Google Chrome | Firefox | Microsoft Edge (WebFOCUS のみ) |
|---|---|---|---|
| 9.0.4 | バージョン 108 | バージョン 107 | バージョン 108 |
| 9.0.3 | バージョン 104 | バージョン 103 | バージョン 104 |
| 9.0.2 | バージョン 102 | バージョン 100 | バージョン 102 |
| 9.0.1 | バージョン 99 | バージョン 98 | バージョン 99 |
| 9.0.0 | バージョン 98 | バージョン 96 | バージョン 98 |
| 8207.28 | バージョン 92 | バージョン 90 | バージョン 92 (WebFOCUS) |
| 8.2.07.27 | バージョン 89 | バージョン 86 | バージョン 89 (WebFOCUS) |
| 8.2.07.26 | バージョン 88 | バージョン 85 | バージョン 87 (WebFOCUS) |
| 8.2.07.25 | バージョン 87 | バージョン 84 | バージョン 87 (WebFOCUS) |
| 8.2.07.24 | バージョン 87 | バージョン 83 | バージョン 87 (WebFOCUS) |
| 8.2.07.23 | バージョン 87 | バージョン 83 | バージョン 86 (WebFOCUS) |
| 8.2.07.22 | バージョン 87 | バージョン 82 | バージョン 86 (WebFOCUS) |
| 8.2.07.21、8.2.07.20、8.2.07.19 | バージョン 86 | バージョン 81 | バージョン 85 (WebFOCUS) |
| 8.2.07.18、8.2.07.17 | バージョン 85 | バージョン 80 | バージョン 85 (WebFOCUS) |

| バージョン | Google Chrome | Firefox | Microsoft Edge (WebFOCUS のみ) |
|---|---|---|---|
| 8.2.07.15、8.2.07.16 | バージョン 84 | バージョン 79 | バージョン 83 (WebFOCUS) |
| 8.2.07.14、8.2.07.13、8.2.07.12 | バージョン 83 | バージョン 77 | バージョン 83 (WebFOCUS) |
| 8.2.07.11 | バージョン 83 | バージョン 76 | バージョン 81 (WebFOCUS) |
| 8.2.07.10、8.2.07.09 | バージョン 81 | バージョン 75 | バージョン 81 (WebFOCUS) |
| 8.2.07.08 | バージョン 81 | バージョン 75 | バージョン 80 (WebFOCUS) |
| 8.2.07.07 | バージョン 80 | バージョン 74 | バージョン 80 (WebFOCUS) |
| 8.2.07.06 | バージョン 80 | バージョン 73 | バージョン 80 (WebFOCUS) |
| 8.2.07.05 | バージョン 80 | バージョン 73 | バージョン 44 (WebFOCUS) |
| 8.2.07.04、8.2.07.03、8.2.07.02 | バージョン 79 | バージョン 73 | バージョン 44 (WebFOCUS) |
| 8.2.07.01 | バージョン 78 | バージョン 70 | バージョン 44 (WebFOCUS) |
| 8.2.07 | バージョン 77 | バージョン 69 | バージョン 44 (WebFOCUS) |

- バージョン 8.2.07.27.0 以降、WebFOCUS の新しいリリースでは、Microsoft Internet Explorer 11 が動作保証済みブラウザとしてサポートされません。この変更は、2021 年 4 月 1 日より有効です。

- Internet Explorer 互換モードはサポートされません。
- Firefox ブラウザバージョンサポートについての詳細は、Mozilla から公開されている次の Web サイトを参照してください。https://wiki.mozilla.org/Release_Management/ESR_Landing_Process
- WebFOCUS で作成した単純な HTML レポートは、任意のブラウザで表示することができます。
- 一部のブラウザバージョンで使用可能な組み込み PDF ビューアを使用する際に、ドリルダウンリンクが機能しません。ブラウザの構成情報を確認し、関連するコンテンツタイプのアプリケーションオプション設定を変更することで、ブラウザで自動的に Adobe Reader が起動するよう調整します。
- Acrobat Reader DC は動作保証されています。Abobe XI および Above X はサポートされています。
- 特定の状況下では、Microsoft Internet Explorer でページを表示する際に、Web ページで指定されたモードと異なるドキュメントモードでページが強制的に表示される場合があります。詳細は、「Internet Explorer Browser Document Compatibility」を参照してください。
- クライアントのブラウザに基づいてイメージ埋め込み機能を使用することにより、HTML レポート、DHTML レポート、DHTML 複合レポートでのイメージおよびグラフの表示がサポートされます。Microsoft Internet Explorer ブラウザで生成される出力、またはブラウザが不明な状況 (例、ReportCaster から配信されるレポート) では、Web アーカイブファイル (.mnt) を作成することでイメージが組み込まれます。その他すべてのブラウザでは、イメージは、生成される .html ファイル内で base64 エンコードされます。
- 特定のブラウザでは、独自の最大バイト数をツールヒントのテキストに適用するため、長いツールヒントは末尾が切り取られて表示される場合があります。たとえば、Microsoft Internet Explorer では、この最大バイト数は 512 バイトですが、Google Chrome では 1024 バイトです。

**サポート対象のモバイルブラウザ**

| **WebFOCUS バージョン** | **iOS バージョン** | **ブラウザ** | **WebFOCUS Mobile App バージョン** |
|---|---|---|---|
| バージョン 9.1.0 以降 | iOS バージョン 15 | Safari | バージョン 4.0.4 |

| WebFOCUS バージョン | iOS バージョン | ブラウザ | WebFOCUS Mobile App バージョン |
|---|---|---|---|
| バージョン 9.1.0 以降 | iOS バージョン 15 | Chrome | バージョン 4.0.4 |
| バージョン 9.1.0 以降 | iOS バージョン 14 | Safari | バージョン 4.0.4 |
| バージョン 9.1.0 以降 | iOS バージョン 14 | Chrome | バージョン 4.0.4 |
| バージョン 9.1.0 以降 | Android バージョン 11 | Chrome | バージョン 4.0.4 |
| バージョン 9.1.0 以降 | Android バージョン 10 | Chrome | バージョン 4.0.4 |

## ibi WebFOCUS のアクセシビリティ準拠

ibi™ は、障害あるユーザを含むすべてのユーザにアクセス可能で使いやすく、質の高い製品とサービスを提供します。

## アクセシビリティのサポート基準

ibi™ は、次の基準に基づき WebFOCUS のアクセシビリティを確保します。

弊社のアジャイル開発プロセスは、WCAG 2.1 レベル AA、改定セクション 508、および 欧州規格 EN 301 549 の標準およびガイドラインに沿ったアクセシビリティ評価を、設計、開発、テストのすべての段階で取り入れています。コーディングは、HTML、CSS、WAI-ARIA、JavaScript で W3C 標準に準拠しています。

ibi™ は、アクセシビリティ標準およびガイドラインに準拠したアプリケーションの作成が可能なソフトウェアツールを提供することで、顧客のアクセシビリティ目標達成に貢献します。各アプリケーションの実際のアクセシビリティ準拠は、ibi™ ツールの適切な使用、および弊社ソフトウェアと相互運用する他社製ハードウェアおよびソフトウェアのアクセシビリティ準拠によって異なります。

サービスについて、ibi™ は、顧客と協調し、サービス契約に関するアクセシビリティ要件に取り組んでいます。ibi™ は、必要なアクセシビリティ標準およびガイドラインに準拠する適切な作業指示書で、顧客に対してアクセシビリティ要件を求めます。ibi™ は、顧客の要件に特化した COTS 製品のアクセシビリティ機能を提示し、提示された機能を使用して開発を進める前に顧客の承認を取得します。

## 適合ステータス

WebFOCUS バージョン 9.1.0 以降は、次のアクセシビリティ標準およびガイドラインに部分的に適合しています。部分的適合とは、コンテンツの一部がアクセシビリティ標準に完全に適合していないことを示します。

| 標準およびガイドライン | レポート内に記載 |
|---|---|
| Web Content Accessibility Guidelines 2.0 | レベル A<br>レベル AA |
| Web Content Accessibility Guidelines 2.1 | レベル A<br>レベル AA |
| Revised Section 508 standards published 01/18/2017 and corrected 01/22/2018 | |
| EN 301 549 Accessibility requirements suitable for publish procurement of ICT products and services in Europe - V3.1.1. (2019-11) | |

## アクセシビリティ機能の範囲

WebFOCUS バージョン 8.2.07.26 以降では、Designer ページおよび WebFOCUS アクセシブルレポートを含む、アクセシビリティ機能を備えた WebFOCUS の 2 レベルトップナビゲーション V5 ポータルを作成、公開するためのツールとガイダンスを設計者に提供し、エンドユーザによる独自の adhoc クエリおよびレポート作成の実行を可能にします。アクセシビリティ機能には、コンテンツ作成 (開発) および管理インターフェースは含まれません。

アクセシビリティ機能を備えた WebFOCUS レポートには、次のフォーマットがあります。

- Analytic Document (Active テクノロジ) - AHTML

- Excel - XLSX
- PowerPoint - PPTX
- HTML -「Technical Memo 4505 - WebFOCUS HTML レポートのアクセシビリティサポート」を参照

アクセシビリティ機能を備えた WebFOCUS レポートは、Web ページまたはアプリケーションから配信、実行できます。Web ページまたはアプリケーションのアクセシビリティ準拠については、設計者が責任を負います。

WebFOCUS バージョン 8.2.07.12 以前の 8.2.07 リリースでは、次の WebFOCUS アクセシビリティ準拠レポートフォーマットがサポートされます。

- HTML -「Technical Memo 4505 - WebFOCUS HTML レポートのアクセシビリティサポート」を参照

**ブラウザ互換性および支援テクノロジ**

テストは、さまざまなオペレーティングシステム、ブラウザ、テスト自動化ツール、スクリーンリーダーを使用して実行されました (例、Windows 10 オペレーティングシステム、Google Chrome ブラウザ、NVDA または JAWS 2020 スクリーンリーダー)。

Google Chrome、Firefox、Microsoft Edge、Microsoft Internet Explorer ブラウザについては、ユーザのカスタマイズ、支援テクノロジおよび他社製拡張機能との統合によりサポートレベルが異なります。

JAWS ブラウザ要件についての詳細は、Freedom Scientific の Web サイトを参照してください。

## テクノロジ仕様

WebFOCUS のアクセシビリティは、次の技術に依存し、Web ブラウザおよび支援テクノロジ、またはユーザの PC にインストールされたプラグインとの特定の組み合わせにより機能します。

- HTML
- WAI-ARIA
- CSS
- JavaScript

上記のテクノロジは、適用されるアクセシビリティ標準に準拠するために使用されます。

## 制限事項

WebFOCUS のアクセシビリティ機能を確実に利用できるよう万全を期していますが、一部に制限事項があることも考えられます。アクセシビリティ機能の使用に問題がある場合は、技術サポートに問い合わせてください。また、追加機能に対するアクセシビリティ準拠のリクエストについても、技術サポートに問い合わせてください。

既知の制限事項

- **アクセシビリティ機能**　機能の範囲は、上記の「適合ステータス」に記載されているとおりです。
- **非テキストコンテンツ、代替テキスト**　WebFOCUS 8.2.07 以降では、コンテンツ作成者に代替テキストを追加する方法を提供し、このコンテンツはスクリーンリーダーで読み取られます。ただし、説明的代替テキストの提供は、コンテンツ作成者に委ねられます。
- **感覚的情報 (ビジュアライゼーション/グラフ)**　アクセシビリティのベストプラクティス準拠は、コンテンツ作成者に委ねられますが、WebFOCUS 8.2.07 以降では、今後のリリースで、ビジュアライゼーションおよびグラフでの感覚的情報の伝達について、強化された代替方法を提供します。
- **リフロー**　データテーブルは、テーブルとして動作し、リフローされません。
- **見出しおよびラベル**　WebFOCUS 8.2.07 以降では、適切な見出しおよびラベルを追加する方法をコンテンツ作成者に提供し、このコンテンツは、スクリーンリーダーで読み取られます。ただし、ベストプラクティスの導入によるアクセシビリティの維持は、コンテンツ作成者に委ねられます。
- **一部分の言語**　言語は、メタレベルでドキュメントに適用されます。
- **機能的遂行基準 (言語障害、認知障害、学習障害)**　WebFOCUS 8.2.07 以降のデータテーブルは複雑であり、拡張機能を提供します。対象ユーザの機能上の要件を特定し、WebFOCUS レポートプロシジャ作成時にこれらの考慮事項を適用することは、コンテンツ作成者の責任です。
- **利用可能な操作の全般 (情報) リスト**　V5 ポータル、Designer ページ、Analytic Document (AHTML) では、利用可能な操作は「Ctrl+Shift+F10」を押すとアクセスできます。
- **変更通知**　オンラインヘルプの今後のリリースで改善される予定です。
- **製品マニュアル**　[オンラインヘルプ] セクションのアクセシビリティは、今後のリリースで改善され、利用可能になります。現在のバージョンでは、次のような問題が発生する可能性があります。
  - 拡大表示での判読性の低下

- 左側ウィンドウから右側ウィンドウへの移動困難
- 印刷メニューのポップアップが、Esc キーの使用またはポインタの移動でも閉じることができない

## ibi™ WebFOCUS Client でサポートされるオペレーティングシステム

下表は、WebFOCUS Client でサポートされるオペレーティングシステムを示しています。

| ベンダー (プロセッサ/アーキテクチャ) | オペレーティングシステムバージョン |
|---|---|
| Microsoft Windows 64 ビット | Windows Server 2022、2019<br>Oracle Java 8 をマシンにインストールする必要があります。詳細は、製品のインストールマニュアルを参照してください。 |
| | Windows Server 2016、2012 R2、2012 |
| | Windows 11、10<br>(開発環境のみに限定) |
| IBM (pSeries 64) | AIX 7.2、AIX 7.1 |
| Oracle (Sparc 64-bit) | Oracle Solaris 11 |
| | Oracle Solaris 10 |
| Oracle (x86) | Oracle Solaris 11 |
| | Oracle Solaris 10 |
| Red Hat (x86_64) | Red Hat Enterprise Linux 7:<br>3.10.0-123.el7.x86_64 以降 -<br>glibc-2.17-36.el7.i686 |
| | Red Hat Enterprise Linux 7:<br>3.10.0-123.el7.x86_64 以降 -<br>glibc-2.17-36.el7.i686 |

| ベンダー (プロセッサ/アーキテクチャ) | オペレーティングシステムバージョン |
|---|---|
| Red Hat (IBM Power Systems) | Red Hat Enterprise Linux 7:<br>3.10.0-123.el7.x86_64 以降 -<br>glibc-2.17-36.el7.i686 |
| Hewlett Packard (Itanium IA64) | HP-UX 11i (11.31) |

## ibi WebFOCUS での Java Platform、Standard Edition (Java SE) のサポート

ここでは、WebFOCUS および ReportCaster Web アプリケーションの展開先としてサポートされる各種 Java SE バージョンの WebFOCUS リリース情報について説明します。また、Java ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする前に、Web アプリケーションサーババージョンの Java バージョン要件を確認することも重要です。

注意事項

- Java SE の同一バージョンレベルでのメンテナンスアップデートもサポートされます。
- 新しい JDK バージョンと WebFOCUS の以前のバージョンとの使用はサポートされます。ただし、一部の問題を解決するために、新しいバージョンの WebFOCUS または JDK サービスパックへのアップグレードが必要になる場合があります。
- 新しい Java SE メジャーリリースのサポートには動作保証が必要なため、下表で明記されていない限り、現時点ではサポートされません。
- 「動作保証済み」と記述されている場合、指定された リリース QA (品質保証) の動作保証プロセスで、指定された Java バージョンがテストされたことを示します。

動作保証済みまたはサポート対象の Java バージョンで問題が発生した場合は、技術サポートに連絡してください。

WebFOCUS バージョン 8.2.07 以降では、WebFOCUS および ReportCaster Web アプリケーションの展開先 Application Server に適用される JVM バージョンの最低要件は、JVM バージョン 8 です。

**Java SE バージョンの動作保証ステータス**　このバージョンでは、Oracle および OpenJDK の Java 8 および Java 11 バージョンが動作保証されています。

## サポート対象の Web サーバおよび Application Server

| ベンダーの Web サーバおよび Application Server | バージョン |
|---|---|
| Apache Software Foundation (Apache Tomcat) | 9 |
| Apache Software Foundation (Apache HTTP) | 2.4<br>2.2 |
| IBM HTTP Server | 8.5.5 |
| IBM WebSphere | 9 |
| Microsoft (IIS) | 10 以降 |
| Oracle WebLogic | 12c (12.2.2.1、12.1.3.0.0) |
| Red Hat (JBoss) | Enterprise Application Platform 7.1.3 |

## WebFOCUS Client リポジトリでサポート対象の RDBMS およびドライバ

| ベンダー (RDBMS) | バージョン | JDBC ドライバ |
|---|---|---|
| Apache Software Foundation (Apache HTTP) | 10.9.1.0 | derbyclient.jar |

| ベンダー (RDBMS) | バージョン | JDBC ドライバ |
|---|---|---|
| Microsoft<br>(MS SQL Server) | 2019 | **Microsoft JDBC Driver 8.4 for SQL Server**<br>mssql-jdbc-8.4.1.jre14.jar<br>mssql-jdbc-8.4.1.jre11.jar<br>mssql-jdbc-8.4.1.jre8.jar<br>**Microsoft JDBC Drive 8.2 for SQL Server**<br>mssql-jdbc-8.2.2.jre13.jar<br>mssql-jdbc-8.2.2.jre11.jar<br>mssql-jdbc-8.2.2.jre8.jar<br>**Microsoft JDBC Drive 7.4 for SQL Server**<br>mssql-jdbc-7.4.1.jre12.jar<br>mssql-jdbc-7.4.1.jre11.jar<br>mssql-jdbc-7.4.1.jre8.jar |
| | 2017 | mssql-jdbc-6.2.2.jre8.jar<br>ダウンロードは、「https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=55539」から可能です。 |
| | 2016<br>2014<br>2012<br>2008 | mssql-jdbc-6.2.2.jre8.jar<br>ダウンロードは、「https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=55539」から可能です。<br>sqljdbc42.jar<br>ダウンロードは、「https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=54671」から可能です。 |

| ベンダー (RDBMS) | バージョン | JDBC ドライバ |
|---|---|---|
| IBM (Db2) | 11.5<br>10.5<br>9.7 FP4 | db2jcc4.jar |
| Oracle (Database) | 19c<br>18c<br>12c Release 2 | ojdbc8.jar |
| | 12c Release 1 | ojdbc7.jar |
| | 11g Release 2 | ojdbc6.jar |
| Oracle (MySql) | 8.0.x<br>5.7.x<br>5.6.x | mysql-connector-java-8.0.29.jar |
| Postgresql | 13.6<br>11.1<br>10.7<br>9.6.x<br>9.5.x | postgresql-42.5.0.jar |

## ローカリゼーション (NLV) および NLS の制限事項

ibi WebFOCUS および App Studio では、一部の選別された言語で国際言語サポートおよびローカライズ版サポートが提供されています。その他の言語に関しては、技術サポートに新機能リクエストを送信することができます。

## 国際言語サポート (NLS)

国際言語サポート (NLS) は、さまざまな国際言語の文字セットを表すコードページで格納されたデータの読み取りと変換に必要です。ibi™ 独自の NLS API コードページアーキテクチャにより、アプリケーションクライアントとサーバコンポーネント間でデータがコード変換され、ソート処理、大文字小文字の変換、日付、通貨、数値の変換のすべてが管理されます。

## ローカライズ版のサポート (NLV)

ローカライズ版は、ユーザインターフェース (例、メニュー、ユーティリティ) が特定の言語で表示されるソフトウェア製品です。ローカライズ版のインターフェースの配列は、すべての言語で共通です。ボタンやメニューの選択項目は、常に製品内の同一位置に表示され、ラベルのテキストのみが異なります。そのため、特定の言語で ibi™ 製品を使い慣れたユーザは、その製品を別の言語でも簡単に操作することができます。

ローカライズ版では、完全な国際言語サポート (NLS) 機能が提供されます。サポートされている任意の言語のデータにアクセスし、すべての国際言語文字を処理、表示、印刷することができます。

## ibi WebFOCUS および ibi WebFOCUS Reporting Server

WebFOCUS Reporting Server バージョンでは、データ処理で次のコードページがサポートされます。

**ASCII プラットフォーム**

| | |
|---|---|
| 137 - 英語 (米国)/西ヨーロッパ (Latin 1) | 923 - Latin 9 (ISO 8859-15) |
| 437 - 英語 (米国) | 942 - 日本語 (shift-JIS) |
| 813 - ギリシャ語 (ISO 8859-7) | 946 - 中国語 (簡体字) |
| 850 - 西ヨーロッパ言語 | 949 - 韓国語 |
| 852 - 中央ヨーロッパ言語 | 1089 - アラビア語 (ISO 8859-6) |
| 857 - トルコ語 | 1250 - 中央ヨーロッパ言語 (Latin 2) |
| 860 - ポルトガル語 | 1251 - キリル文字 (Windows) |
| 862 - ヘブライ語 | 1252 - Windows (Latin 1) |

| | |
|---|---|
| 863 - フランス語 (カナダ) | 1253 - ギリシャ語 (Windows) |
| 865 - 北欧ゲルマン系言語 | 1254 - トルコ語 (Windows) |
| 866 - キリル文字 II | 1255 - ヘブライ語 (Windows) |
| 869 - ギリシャ語 | 1256 - アラビア語 (Windows) |
| 912 - 中央ヨーロッパ言語 (ISO 8859-2) | 1257 - バルト沿岸諸国言語 (Windows) |
| 915 - キリル文字 (ISO 8859-5) | 10942 - 日本語 (EUC) |
| 916 - ヘブライ語 (ISO 8859-8) | 10948 - 中国語 (繁体字) |
| 920 - トルコ語 (ISO 8859-9) | 65001 - Unicode (UTF-8) |
| 921 - バルト語 (ISO 8859-13) | |

## 言語

LANGUAGE パラメータは、国際言語サポート (NLS) の環境を指定します。このパラメータは、サーバのエラーメッセージに使用する言語を設定します。また、マスターファイルに別の言語の TITLE 属性が含まれている場合に、レポートタイトルに使用する言語をこのパラメータで設定することもできます。

Web コンソール、Data Migrator およびデータ管理コンソールでは、次の言語がサポートされます。

(* ローカライズ版)

- 英語 (米国)
- 英語 (オーストラリア)*
- アラビア語
- ポルトガル語 (ブラジル)
- 英語 (カナダ)*
- クロアチア語
- チェコ語

- ❑ デンマーク語
- ❑ オランダ語
- ❑ 英語
- ❑ エストニア語
- ❑ フィンランド語
- ❑ フランス語*
- ❑ ドイツ語*
- ❑ ギリシャ語
- ❑ ヘブライ語
- ❑ ハンガリー語
- ❑ イタリア語
- ❑ 日本語*
- ❑ 韓国語
- ❑ ラトビア語
- ❑ リトアニア語
- ❑ ノルウェー語
- ❑ ポーランド語
- ❑ ポルトガル語
- ❑ ルーマニア語
- ❑ ロシア語
- ❑ 中国語 (簡体字)*
- ❑ スロバキア語
- ❑ スペイン語*
- ❑ スウェーデン語
- ❑ 中国語 (繁体字)*
- ❑ タイ語

- トルコ語
- 英語 (イギリス)

### ibi WebFOCUS Client および ReportCaster

WebFOCUS Client および ReportCaster では、次のローカライズ版がサポートされます。

次の言語は、翻訳および動作保証プロセスが完了しています。

**グループ 1 (完全翻訳)**

- 英語 (オーストラリア、カナダ、英国、米国)
- フランス語 (カナダおよび標準)
- ドイツ語
- スペイン語

**グループ 2 (部分翻訳)**

次の言語では、特定のエリアのみで翻訳およびテストが完了しています。未翻訳のテキストは英語で表示されます。

- 中国語 (簡体字)
- ポルトガル語 (ブラジル)
- イタリア語
- 日本語

**グループ 3 (評価中)**

次の言語では、特定のエリアのみで翻訳およびテストが完了しています。 未翻訳のテキストは英語で表示されます。この言語を有効にする場合は、技術サポートに問い合わせてください。

- 韓国語

## ibi WebFOCUS レポート および Microsoft Office のサポート

ここでは、Microsoft Office 製品で出力を生成する WebFOCUS レポートフォーマットのサポートについて説明します。また、WebFOCUS でセキュリティ保護されたプロシジャに動的ドリルダウンリクエストを実行するハイパーリンクの注意事項についても説明します。

## ibi WebFOCUS レポートフォーマットおよび Microsoft 製品との関連付け

下表は、Microsoft Excel および PowerPoint のレポートを作成する WebFOCUS のフォーマット、Microsoft Office のアプリケーション関連付け情報、および対応する Windows オペレーティングシステムのバージョンを示しています。

| WebFOCUS フォーマット | Microsoft Office 製品 | Windows オペレーティングシステム |
|---|---|---|
| XLSX | Microsoft Office 365、Microsoft Office 2016、2019<br>Microsoft Office 2016、2013、2010、2007<br>Microsoft Excel Viewer 2007 | Windows 10<br>Windows 8<br>Windows 7 |
| PPTX | Microsoft Office 365、Microsoft Office 2016、2019<br>Microsoft Office 2016、2013、2010、2007<br>Microsoft PowerPoint Viewer 2010 | Windows 10<br>Windows 8<br>Windows 7 |
| EXL2K<br>(機能固定リソース) | Microsoft Office 2003、2000 | Windows XP<br>Windows 2000 |
| PPT<br>(機能固定リソース) | Microsoft Office 2003、2000 | Windows XP<br>Windows 2000 |

Windows オペレーティングシステムで使用できる Microsoft Office のバージョンについての詳細は、「Get Windows 10 App」を参照してください。各 PC に対応する互換性レポートおよび PC、オンボードデバイス、アプリケーションの統合互換表示が参照できます。

## ibi WebFOCUS の EXL2K、PPT フォーマットおよび Microsoft Office 製品のサポート

ファイルタイプおよび Microsoft が導入したコンテンツセキュリティポリシーにより、WebFOCUS の EXL2K、PPT フォーマットは Microsoft Office 2013 以降サポートされません。WebFOCUS の XLSX、PPTX フォーマットは、Microsoft Excel XLSX、Microsoft PowerPoint PPTX のファイルタイプおよび Office 2013 以降のコンテンツセキュリティポリシーを完全にサポートします。

## Microsoft Office 2003 のサポート

「Get Windows 10 App」を参照してください。各 PC に対応する互換性レポートおよび PC、オンボードデバイス、アプリケーションの統合互換表示が参照できます。WebFOCUS 製品は、Microsoft Office 2003 のアプリケーションでも起動および使用が可能ですが、Microsoft では継続してサポートやアップデートに対応できるよう Office の新しいバージョンへのアップグレードを推奨しています。Windows XP で Office 2003 を使用する場合は、Microsoft Office 2003 および Windows XP SP3 のサポート終了についての詳細を、「Support for Windows XP ended」で確認してください。

新しいバージョンの Microsoft Excel および PowerPoint で作成したドキュメント、ブック、プレゼンテーションの開始 (ファイルを開く) 、編集、保存についての詳細は、「Microsoft Office Compatibility Pack for Word, Excel, and PowerPoint File Formats」を参照してください。

## ibi WebFOCUS EXL2K および PPT フォーマットと Microsoft Office Viewer 製品のサポート

Microsoft Excel Viewer および PowerPoint Viewer は読み取り専用の製品です。これらの製品では、Microsoft Excel および PowerPoint のデータの表示と印刷のみが可能です。WebFOCUS の EXL2K、PPT フォーマットのレポートは、バージョンにかかわらず Microsoft Excel Viewer および Microsoft PowerPoint Viewer ではサポートされません。WebFOCUS の XLSX、PPTX フォーマットのレポートは、それぞれ Microsoft Excel Viewer と Microsoft PowerPoint Viewer でサポートされており、表示が可能です。

Microsoft は、古いバージョンの Microsoft Excel および Microsoft PowerPoint Viewer のサポート終了を発表しています。サポートされる Microsoft Office Viewer 製品のバージョンについての詳細は、「Supported versions of the Office viewers」を参照してください。Microsoft Office Viewer は、「Microsoft Download Center」からダウンロードすることができます。

## Microsoft Office 365 のサポート

Microsoft Office 365 は、Microsoft Excel および PowerPoint 2013 のローカルインストール機能を提供します。Office 2010 に対応し、Office 2007 の一部機能にも対応しています。Microsoft Office 365 では、Office Online を使用してほとんどのデバイスからアクセス可能なクラウドに Microsoft Excel および PowerPoint のファイルをアップロードすることもできます。Microsoft Office 365 についての詳細は、「Office 365 for business FAQ」を参照してください。

Microsoft Office 365 を使用して、WebFOCUS の XLSX および PPTX フォーマットのレポートにアクセスすることができます。最初に、HOLD ファイルとして XLSX および PPTX レポートをローカルに作成するか、PCHOLD コマンドを使用してレポートを画面に表示し、ローカルディレクトリに保存します。保存したファイルは、OneDrive for Business にアップロード、保存されます。クラウドにアップロード済みのファイルには、Office Online を使用してアクセスすることができます。

Excel Online、PowerPoint Online および Microsoft Office 2013 で使用可能な機能の違いについての詳細は、「Office Online Service Description」を参照してください。

Office Online および OneDrive for Business の使用についての詳細は、「Using Office Online in OneDrive」を参照してください。

## ハイパーリンクを使用してレポートを実行する際の注意事項

WebFOCUS レポートでハイパーリンクを選択し、ドリルダウンリクエストから WebFOCUS のセキュアな Web 環境でプロシジャを実行するには、セキュリティコンテキストまたはセッション関連 Cookie の継承が必要です。Microsoft Office 製品は、Web ベースのアプリケーションが作成したセキュリティコンテキストまたはセッション関連 Cookie を継承しません。

次のオプションは、WebFOCUS レポートのハイパーリンクが Microsoft Office 製品内で機能するよう Web 環境を構成するために使用されます。

- 匿名アクセスを許可するよう WebFOCUS 認証を構成する。
- SSO を IIS/Tomcat Windows 統合認証とともに使用する。再ネゴシエーションが自動的に発生し、Excel および PowerPoint レポートが正しく表示されます。
- WebFOCUS バージョン 8 では、[ログイン] ページの [ユーザを記憶する] 機能を有効にすることができます。エンドユーザが [ユーザを記憶する] 機能を使用した場合、永続 Cookie が使用されます。Microsoft Office 製品のセッション関連情報の処理についての詳細は、「Error message when clicking hyperlink in Office: "Cannot locate the Internet server or proxy server」を参照してください。

## ibi WebFOCUS の DOC フォーマット

WebFOCUS ドキュメントのスタイルフォーマットおよび印刷可能なフォーマットの標準は、Acrobat PDF フォーマットです。WebFOCUS の PDF フォーマットは、Acrobat PDF ドキュメントを作成します。WebFOCUS DOC フォーマットは、Microsoft Word ドキュメントではなく、文字ベースのファイルを生成します。

# Legal and Third-Party Notices

SOME TIBCO SOFTWARE EMBEDS OR BUNDLES OTHER TIBCO SOFTWARE. USE OF SUCH EMBEDDED OR BUNDLED TIBCO SOFTWARE IS SOLELY TO ENABLE THE FUNCTIONALITY (OR PROVIDE LIMITED ADD-ON FUNCTIONALITY) OF THE LICENSED TIBCO SOFTWARE. THE EMBEDDED OR BUNDLED SOFTWARE IS NOT LICENSED TO BE USED OR ACCESSED BY ANY OTHER TIBCO SOFTWARE OR FOR ANY OTHER PURPOSE.

USE OF TIBCO SOFTWARE AND THIS DOCUMENT IS SUBJECT TO THE TERMS AND CONDITIONS OF A LICENSE AGREEMENT FOUND IN EITHER A SEPARATELY EXECUTED SOFTWARE LICENSE AGREEMENT, OR, IF THERE IS NO SUCH SEPARATE AGREEMENT, THE CLICKWRAP END USER LICENSE AGREEMENT WHICH IS DISPLAYED DURING DOWNLOAD OR INSTALLATION OF THE SOFTWARE (AND WHICH IS DUPLICATED IN THE LICENSE FILE) OR IF THERE IS NO SUCH SOFTWARE LICENSE AGREEMENT OR CLICKWRAP END USER LICENSE AGREEMENT, THE LICENSE(S) LOCATED IN THE "LICENSE" FILE(S) OF THE SOFTWARE. USE OF THIS DOCUMENT IS SUBJECT TO THOSE TERMS AND CONDITIONS, AND YOUR USE HEREOF SHALL CONSTITUTE ACCEPTANCE OF AND AN AGREEMENT TO BE BOUND BY THE SAME.

This document is subject to U.S. and international copyright laws and treaties. No part of this document may be reproduced in any form without the written authorization of Cloud Software Group, Inc.

TIBCO, the TIBCO logo, the TIBCO O logo, ibi, ibi logo, ActiveMatrix BusinessWorks, TIBCO Administrator, BusinessConnect, TIBCO Designer, Enterprise Message Service, Hawk, and Maporama are either registered trademarks or trademarks of Cloud Software Group, Inc. in the United States and/or other countries.

Java and all Java based trademarks and logos are trademarks or registered trademarks of Oracle Corporation and/or its affiliates.

This document includes fonts that are licensed under the SIL Open Font License, Version 1.1, which is available at: https://scripts.sil.org/OFL

Copyright (c) Paul D. Hunt, with Reserved Font Name Source Sans Pro and Source Code Pro.

All other product and company names and marks mentioned in this document are the property of their respective owners and are mentioned for identification purposes only.

This software may be available on multiple operating systems. However, not all operating system platforms for a specific software version are released at the same time. See the readme file for the availability of this software version on a specific operating system platform.

THIS DOCUMENT IS PROVIDED "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, OR NON-INFRINGEMENT.

THIS DOCUMENT COULD INCLUDE TECHNICAL INACCURACIES OR TYPOGRAPHICAL ERRORS. CHANGES ARE PERIODICALLY ADDED TO THE INFORMATION HEREIN; THESE CHANGES WILL BE INCORPORATED IN NEW EDITIONS OF THIS DOCUMENT. CLOUD SOFTWARE GROUP, INC. MAY MAKE IMPROVEMENTS AND/OR CHANGES IN THE PRODUCT(S) AND/OR THE PROGRAM(S) DESCRIBED IN THIS DOCUMENT AT ANY TIME.

THE CONTENTS OF THIS DOCUMENT MAY BE MODIFIED AND/OR QUALIFIED, DIRECTLY OR INDIRECTLY, BY OTHER DOCUMENTATION WHICH ACCOMPANIES THIS SOFTWARE, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY RELEASE NOTES AND "READ ME" FILES.

This and other products of Cloud Software Group, Inc. may be covered by registered patents. Please refer to TIBCO's Virtual Patent Marking document (https://www.tibco.com/patents) for details.

Copyright © 2023. Cloud Software Group, Inc. All Rights Reserved.